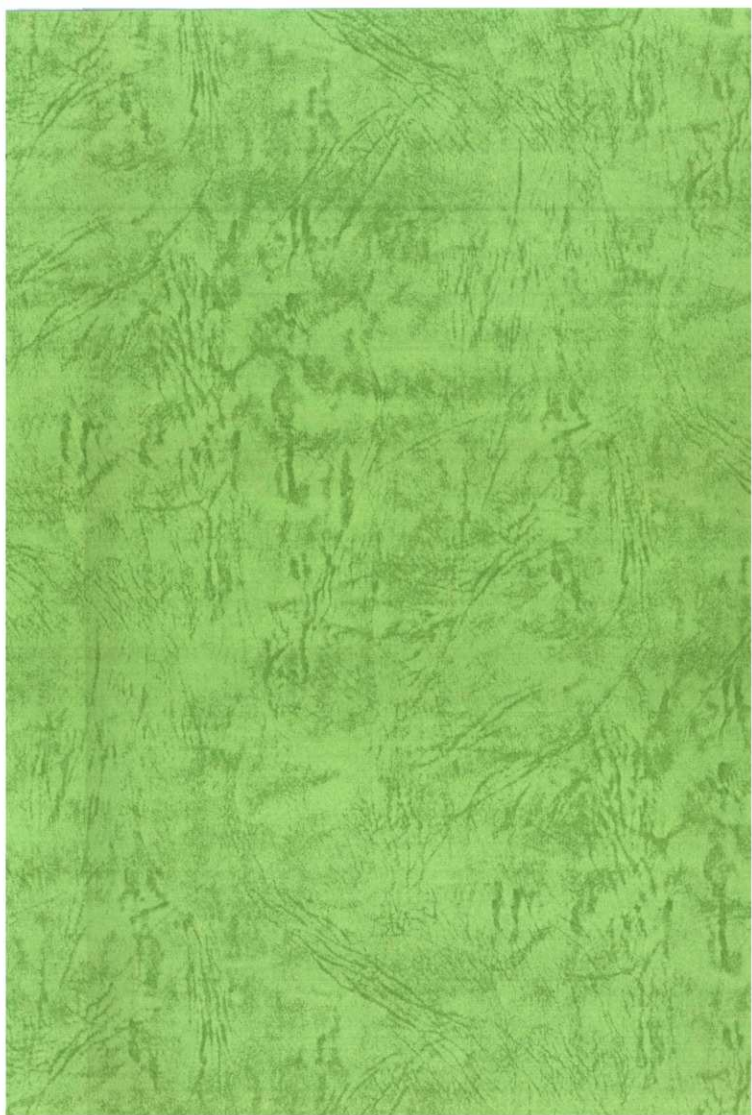


－平成19年度・平成20年度発掘調査報告－

埋蔵文化財調査報告書

2010年3月
兵庫県神崎郡
福崎町教育委員会



－平成19年度・平成20年度発掘調査報告－

埋蔵文化財調査報告書

2010年3月
兵庫県神崎郡
福崎町教育委員会

あ い さ つ

福崎町の埋蔵文化財調査は、小規模開発等に伴う試掘・確認調査を中心に行われています。個人住宅を初め各種開発に伴い実施した結果、遺跡の有無や遺跡の性格などが少なからず知ることができるようになりました。文化財の保護という点からもこのような試掘・確認調査は必要不可欠であり、対応していくことが求められます。最後になりましたが、調査においては、関係者各位のご協力を得ることができ、厚くお礼申し上げます。

平成22年3月

福崎町教育委員会
福崎町教育長 高寄 十郎

例 言

1. 本書は、平成19年度・平成20年度に行った試掘・確認調査の発掘調査報告書である。
2. 調査は、各個人・団体の依頼を受け福崎町教育委員会が主体となり実施した。
3. 経費は国庫補助金を得て実施した。
4. 各年度の調査体制は以下の通りである。

平成19年度	平成20年度	平成21年度
調査事務局	調査事務局	整理事務局
教 育 長 岡本 裕	教 育 長 岡本 裕	教 育 長 岡本 裕 高寄 十郎
社会教育課長 北山 正和	社会教育課長 高井 紳一	社会教育課長 山下 健介
社会教育課副課長 山下 健介	社会教育課副課長 山下 健介	文化財担当 林 彰彦
社会教育係長 出田 直	社会教育係長 出田 直	

調査担当

調査員 出田 直

整理作業は、福崎町教育委員会が行い、梶 智美の補助を得た。健康福祉課 出田の協力を得た。

5. 挿図中に使用している方位は基本的に磁北を示している。
6. 本書の執筆は出田が行い、編集は福崎町教育委員会が行った。
7. 遺構の実測、写真は福崎町教育委員会が行い、遺物の実測・製図、遺構の製図等は梶の協力を得た。
8. 現地調査作業には下記の方の協力を得た。(順不同・敬称略)
西井正実、城井直孝、牛尾明正、牛尾秀一、牛尾秀麿、松岡正夫、長谷川義信、梶 智美、生田建設株式会社、中島区、福崎町まちづくり課
9. 整理作業に関して下記の方の協力を得た。(順不同・敬称略)
梶 智美、神崎郡歴史民俗資料館、福崎町産業課

目次

あいさつ・例言	Ⅰ
目次・図版目次・写真目次	Ⅱ・Ⅲ
平成19年度埋蔵文化財発掘調査一覧	1
平成20年度埋蔵文化財発掘調査一覧	1
平成19年度	
1 田口遺跡	3
2 南田原条里遺跡(第8次)	4
3 福田東田黒遺跡	6
4 西田原堂ノ前遺跡	11
5 南田原地区(西光寺)	15
6 駅前地区	17
7 西田原地区(北野)	19
8 新町地区(福崎幼児園建設予定地)	21
9 山崎地区	24
10 桜遺跡	26
11 田口地区(ほ場整備予定地)	28
12 馬田スガキ遺跡	36
13 南田原条里遺跡(第9次)	39

平成20年度	
14 南田原条里遺跡(第11次)	42
15 南田原条里遺跡(第12次)	44
16 南田原条里遺跡(第13次)	45
17 西田原土ノ前遺跡	48
18 東広畑古墳(第4次)	52

図版目次

図1 福崎町位置図	2
図2 調査場所位置図	2
1 田口遺跡	
図3 調査場所位置図	3
図4 土層図	3
2 南田原条里遺跡(第8次)	
図5 調査場所位置図	4
図6 調査区配置図	4
図7 土層図	5
3 福田東田黒遺跡	
図8 調査場所位置図	6
図9 調査区配置図	6
図10 土層図	7
図11 出土遺物	9
4 西田原堂ノ前遺跡	
図12 調査場所位置図	11
図13 調査区配置図	11
図14 土層図	12
図15 出土遺物	13
5 南田原地区	
図16 調査場所位置図	15
図17 調査区配置図	15
図18 土層図	16

6 駅前地区	
図19 調査場所位置図	17
図20 調査区配置図	17
図21 土層図	18
図22 出土遺物	18
7 西田原地区(北野)	
図23 調査場所位置図	19
8 新町地区(福崎幼児園建設予定地)	
図24 調査場所位置図	21
図25 調査区配置図	21
図26 土層図	22
9 山崎地区	
図27 調査場所位置図	24
図28 調査区配置図	24
図29 土層図	25
10 桜遺跡	
図30 調査場所位置図	26
図31 調査区配置図	26
図32 土層図	27
11 田口地区(ほ場整備予定地)	
図33 調査場所位置図	28
図34 調査区配置図	28
図35~36 土層図	33・34
図37 出土遺物	35

	12 馬田スガキ遺跡	
図38	調査場所位置図	36
図39	調査区配置図	36
図40	土層図	37
図41	出土遺物	38
	13 南田原条里遺跡 (第9次)	
図42	調査場所位置図	39
図43	調査区配置図	39
図44	土層図	40
	平成20年度	
	14 南田原条里遺跡 (第11次)	
図45	調査場所位置図	42
図46	土層図	42
	15 南田原条里遺跡 (第12次)	
図47	調査場所位置図	44
図48	土層図	44

	16 南田原条里遺跡 (第13次)	
図49	調査場所位置図	45
図50	調査区配置図	45
図51	土層図	46
図52	出土遺物	47
	17 西田原辻ノ前遺跡	
図53	調査場所位置図	48
図54	調査区配置図	48
図55	土層図	49
図56	出土遺物	50
	18 東広畑古墳 (第4次)	
図57	調査場所位置図	52
図58	調査区配置図	52

写真目次

図版1	平成19年度	図版14	13 南田原条里遺跡 (第9次)
	1 田口遺跡	図版15	平成20年度
	2 南田原条里遺跡 (第8次)		14 南田原条里遺跡 (第11次)
	3 福田東田黒遺跡		15 南田原条里遺跡 (第12次)
図版2	3 福田東田黒遺跡		16 南田原条里遺跡 (第13次)
図版3	3 福田東田黒遺跡	図版16	16 南田原条里遺跡 (第14次)
	4 西田原堂ノ前遺跡		17 西田原辻ノ前遺跡
図版4	4 西田原堂ノ前遺跡	図版17	17 西田原辻ノ前遺跡
	5 南田原地区 (西光寺)	図版18	17 西田原辻ノ前遺跡
	6 駅前地区		18 東広畑古墳 (第4次)
図版5	7 西田原地区 (北野)		
	8 新町地区 (福崎幼児園建設予定地)		
図版6	8 新町地区 (福崎幼児園建設予定地)		
	9 山崎地区		
図版7	10 桜遺跡		
	11 田口地区 (ほ場整備予定地)		
図版8~11			
	11 田口地区 (ほ場整備予定地)		
図版12	11 田口地区 (ほ場整備予定地)		
	12 馬田スガキ遺跡		
図版13	12 馬田スガキ遺跡		
	13 南田原条里遺跡 (第9次)		

平成19年度 埋藏文化財調査一覽

試掘・確認調査

遺跡名	所在地	原因者	要因	調査期間	取扱	時代	遺構	遺物	調査面積	試掘・確認	地図番号
田口遺跡	福岡町田口字巡礼道	個人	個人住宅建設	平成19年4月6日	工事	-	なし	なし	1箇所 4㎡	確認	1
南田原条里遺跡(第8次)	福岡町南田原字前田	個人	個人住宅建設	平成19年4月6日	工事	-	なし	なし	1箇所 4㎡	確認	2
福田東田黒遺跡	福岡町福田字東田黒	業者	分譲住宅建設	平成19年4月23日	工事	中世	溝状遺構・pit	土師器・須恵器	10箇所 40㎡	試掘	3
西田原堂ノ前遺跡	福岡町西田原字堂ノ前	業者	分譲住宅建設	平成19年5月14日	工事	奈良中世	溝状遺構・pit	土師器・須恵器	4箇所 16㎡	試掘	4
南田原地区	福岡町南田原字焼堂	個人	個人住宅建設	平成19年7月19日	工事	-	なし	なし	1箇所 4㎡	試掘	5
駅前地区	福岡町福田字町田	業者	分譲住宅建設	平成19年8月7日	工事	-	なし	土師器・須恵器	2箇所 10㎡	試掘	6
西田原地区(北野)	福岡町西田原字中ノ谷	公共	ため池工事	平成19年9月10日	工事	-	なし	なし	2箇所 40㎡	試掘	7
新町地区(幼児園建設予定地)	福岡町福岡新字中島	公共	幼児園建設	平成19年10月12日	工事	-	なし	なし	6箇所 24㎡	試掘	8
山崎地区	福岡町山崎字スガキ	業者	集合住宅建設	平成19年10月17日	工事	-	なし	土師器・須恵器	4箇所 16㎡	試掘	9
桜遺跡	福岡町高岡字梨ノ木	個人	個人住宅建設	平成19年11月7日	工事	-	なし	なし	1箇所 4㎡	確認	10
田口團場整備予定地	福岡町田口	公共	團場整備	平成19年11月7日～11月9日	工事	-	なし	土師器・木製品	38箇所 152㎡	試掘	11
馬田スガキ遺跡	福岡町馬田字スガキ	業者	分譲住宅建設	平成19年11月16日	工事	-	なし	なし	8箇所 32㎡	試掘	12
南田原条里遺跡(9次)	福岡町南田原	公共	道路建設	平成20年2月28日	工事	-	pit	土師器・須恵器	9箇所 36㎡	確認	13

平成20年度 埋藏文化財調査一覽

試掘・確認調査

遺跡名	所在地	原因者	要因	調査期間	取扱	時代	遺構	遺物	調査面積	試掘・確認	地図番号
南田原条里遺跡(11次)	福岡町南田原字岸ノ上	個人	個人住宅建設	平成20年7月25日	工事	-	なし	なし	1箇所 4㎡	確認	14
南田原条里遺跡(12次)	福岡町南田原字川田	個人	個人住宅建設	平成20年10月21日	工事	-	なし	なし	1箇所 4㎡	確認	15
南田原条里遺跡(13次)	福岡町南田原字川田	公共	道路建設	平成20年11月14日	工事	-	なし	なし	1箇所 4㎡	確認	16
西田原辻ノ前遺跡	福岡町西田原字辻ノ前	業者	分譲住宅建設	平成21年3月30日	工事	中世	pit	土師器・須恵器	10箇所 40㎡	試掘	17
東広畑古墳	福岡町西田原字東広畑	公共	古墳公園	平成20年9月～12月	保存	古墳	石室	須恵器・鉄器	1箇所 10㎡	確認	18

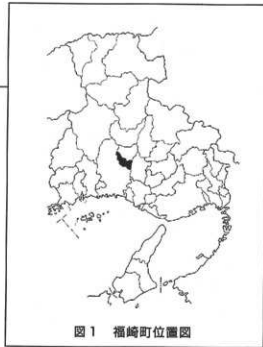


図1 福島町位置図

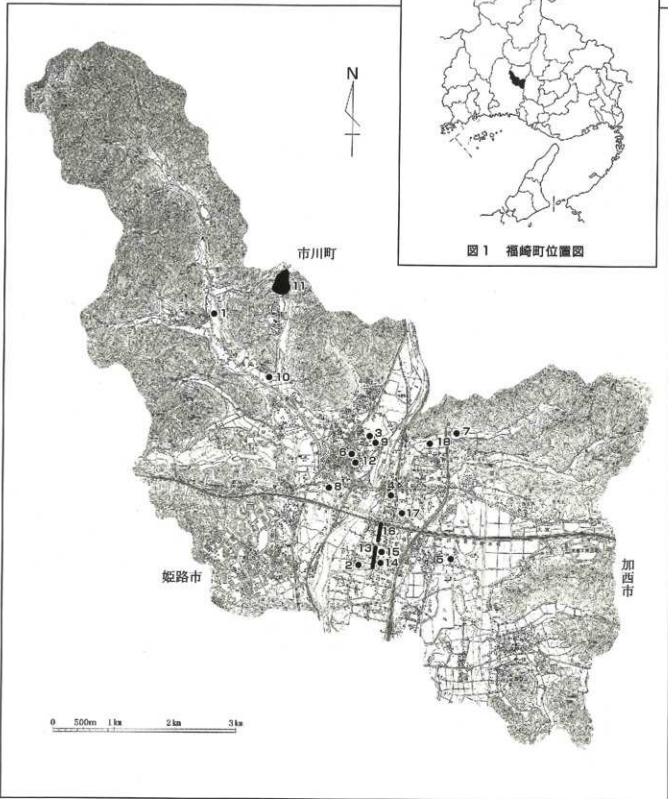


図2 調査場所位置図

平成19年度

1 田口遺跡

調査地区 神崎郡福崎町田口字巡礼道北344番1

調査主体 福崎町教育委員会

調査担当 出田 直(福崎町教育委員会)

調査期間 平成19年4月6日(金)

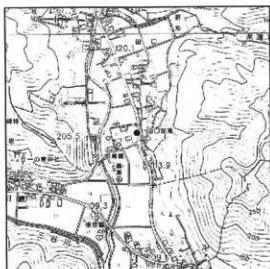


図3 調査場所位置図

○調査に至る経過

農地転用の申請の際に届出がなされ、周知の遺跡の範囲に含まれると考えられる場所であり、確認調査の必要性があることから協力を得て調査を行った。

○調査方法

字巡礼道北の1筆を調査対象地とし、1箇所調査区を設けた。盛土を重機により掘削し下層は人力で精査した。その際、適宜写真や図面により記録を作成した。

○調査概要

周辺の地理的歴史的環境

地形区分上は、七種川の氾濫原となる部分に位置づけられる。中世の散布地として知られる田口遺跡の周辺には、顕著な遺跡は知られていないが、字名が示すとおり、巡礼道に隣接する場所であり、書写山円教寺から成相山成相寺までの道路が通り、旧夢前町から市川町へと抜ける道が知られている。

北方には明治時代に移転した、真言宗の古刹金剛城寺が知られている。

調査区の概要

調査区は、予定地内の北西に1箇所設置した。

調査区1

土層は、耕作土が約25cmあり、その下層には35cm程度の盛土がある。その下層には東から西に傾斜する土層が確認され、旧地形の傾斜と考えられる。

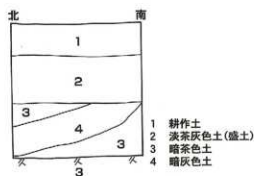


図4 土層図

遺構

確認されなかった。

遺物

何も出土しなかった。

○まとめ

散布地内に位置づけられるが、遺構遺物共に皆無であり、工事には支障ないものと考えられた。

2 南田原条里遺跡（第8次）

調査地区 神崎郡福岡町南田原字前田2393
番3

調査主体 福岡町教育委員会

調査担当 出田 直（福岡町教育委員会）

調査期間 平成19年4月6日（金）

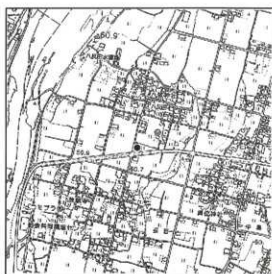


図5 調査場所位置図

○調査に至る経過

農地転用の申請の際に届出がなされ、周知の遺跡の範囲に含まれると考えられる場所であり、確認調査の必要性があることから協力を得て調査を行った。

○調査方法

字前田の1筆を調査対象地とし、1箇所調査区を設けた。造成が行われている場所であったが、造成は盛土によって行われているために、盛土を重機により掘削し調査を行った。その際、適宜写真や図面により記録を作成した。

○調査概要

周辺の地理的歴史的環境

地形区分上は、市川の氾濫原となる部分で高位氾濫原と位置づけられる。南田原条里遺跡に該当する場所であるが、条里という性格以外に遺跡として認められる場所は、微高地状の場所があり、旧来からの集落を形成している場所が該当する。その周辺には、中世の遺物包含層やp i lなどを伴う遺構が確認された場所もある。

ここから南方には弥生時代の環濠集落として知られる南田原長日遺跡が存在する。

調査区の概要

調査区は、造成地内の中央に1箇所設置した。

調査区1

土層は、約120cm下に旧耕作土があると考えられ、その上層には、明黄色土の盛土が施されている。

旧耕作土部分までは、掘削できなかったが、周辺の状況から盛土の厚さがわかり得た。



図6 調査区配置図

遺構

確認されなかった。

遺物

何も出土しなかった。

○まとめ

周辺の状況と地形区分上氾濫原と位置づけられる場所であり、遺物等の出土が顕著な場所と無いと考えられ、遺跡内ではあるものの問題が無いと判断できた。

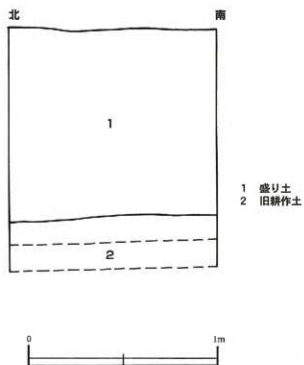


図7 土層図

3 福田東田黒遺跡

調査地区 神崎郡福崎町福田字東田黒140番
ほか
調査主体 福崎町教育委員会
調査担当 出田 直 (福崎町教育委員会)
調査期間 平成19年4月23日(月)



図8 調査場所位置図

○調査に至る経過

開発申請に伴う事前調整があり、開発前に試掘調査を実施し遺跡の有無を調べる必要があると判断し協力を得て調査を行った。

○調査方法

耕作土等は重機により掘削し、壁面等は人力により精査した。その際、適宜写真や図面により記録をとった。

○調査概要

周辺の地理的歴史的環境

地形区分上は、低位段丘面に位置する。同一面上には北方に古墳時代後期の大塚古墳がある。低位段丘面といいながらも、その中でも地形の高低が見られ低い部分は拳大から人頭大の川原石が堆積しており、氾濫原の一部という認識ができる。

山崎字大塚には、古墳時代後期の大塚古墳が存在する。また西方の山麓には学校等の造成により消滅した古墳群が知られているが、顕著な遺跡は知られていない。

約1km圏内には、古墳以外で遺跡と認識できるものとしては、散布地が有るが、最近では、山崎千東に有る山崎千東岩ハナ遺跡からは、奈良時代の須恵器と共に石組み遺構が検出されている。また、山崎周辺からは中世の土器も出土し周辺にも中世の集落等の遺跡の可能性を示唆するものである。

西方の福田集落には、近世の固寧倉が建設され、町指定文化財となっている。その下層からは、奈良時代から平安時代に属する瓦の出土があり、字無量寺から古代寺院の存在を示唆するものとして注目されているが、周辺からはそれ以外の遺物の出土は知られていない。

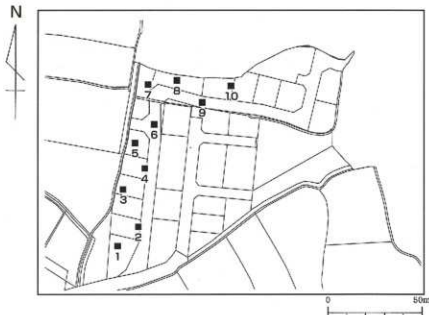


図9 調査区配置図

調査区の概要

調査区は、開発予定地内に10箇所を設定した。南北と東西にわかれ、丁度し字状になり、南北方向に6箇所、東西方向に4箇所の調査区を設定した。

調査区1

南北方向の一番南側に設定した調査区であり、この調査区の南方5mでは、落差が4m程度もある段丘地形が見受けられる。西側には、一段低い水田があるが、同様のレベル部分では、公共施設である「エルアホール」が建設され、建設時には遺構や遺物は皆無で、しかも、川原石が顕著に確認できた場所であった。そのために、この調査区においても川原石等が出土し氾濫原状の堆積が想定された。

耕作土直下で地山面に至り、その部分には一部包含層が確認された。地山面は、拳大の礫混じりであり、西側の堆積状況と同じような傾向が見られた。

調査区2

調査区1の斜め東に設定した調査区で、調査区1と同様に耕作土直下で遺構状の堆積が見られた。地山面には、調査区1と同様の堆積がみられ、調査区内の北部分にある堆積は中世の土師器を含む暗褐色土であった。

調査区3

南北方向の中央付近に設定した調査区で、暗灰褐色土の下層に黒色土(クロボク)が広がり、遺物の出土が見られた。遺物は土師器が出土した。クロボク層から遺物が出土したように考えられたが、周辺の調査区の状況から、クロボク層の上面の層から出土しており、クロボク層からの出

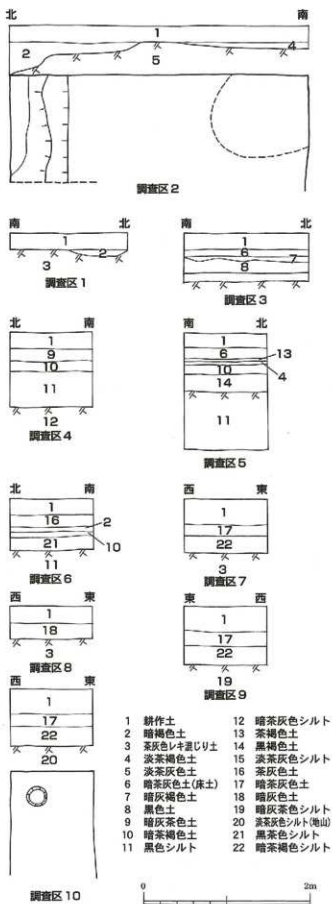


図10 土層図

土は見られない。ここでも同様に、上層の暗灰褐色土層からの出土とすることができる。

調査区 4

南北方向中央東に設定した。このあたりから、クロボク層の堆積が厚いものとなってくる傾向にある。しかし、クロボク層の上層に位置する包含層と考えられる面は、ほぼ、耕作土から約50～60cmのところに位置する。

ここでも同様に、黒色シルト（クロボク）層の上層である暗茶褐色土から土師器の出土が見られた。

調査区 5

南北方向の北端西側に設定した。調査区4と同様の堆積であり、クロボク層からの遺物の出土は見られなかった。上層の黒褐色土から遺物の出土が見られた。

調査区 6

南北方向の北端東に設定した。遺物包含層と認識できるものは、黒茶色シルト層までであり、クロボク層は遺物を含まない。

調査区 7

東西方向の調査区で西端に設定した。遺物包含層は確認できたものの、クロボク層は見られなかった。地山面は、茶灰色礫混じり土で拳大の礫が混じる。

調査区 8

調査区7とはほぼ同様であるが、遺物包含層も見られなかった。地山面は、調査区7と同様である。

調査区 9

遺物包含層とその下層にクロボク層が確認できた。遺物は土師器が出土した。

調査区 10

東西方向の東端に設定した。地山面からp i tが1基確認できた。遺跡の広がりが見示唆される。また、他の調査区と同様に包含層とクロボク層が確認できた。

遺構（図10）

調査区2からは、土抗状の堆積が見られ、中から土師器の出土があった。調査区10からはp i tが確認でき、遺構の広がりと考えられた。クロボク層の範囲が調査区3、4、5、6、9、10となり、調査区7、8からはクロボク層が見られないことや同様に調査区1、2にも見られないことから、限られた範囲に広がりを見せるようである。

遺物（図11）

調査区1と調査区10から主に出土した。

1は外面にタタキをもつ甕と考えられる。2は甕の底部と考えられ、外面にタタキをもつ。3は須恵器の口縁で山茶碗と考えられる。4は東播系須恵器の鉢と考えられるもの

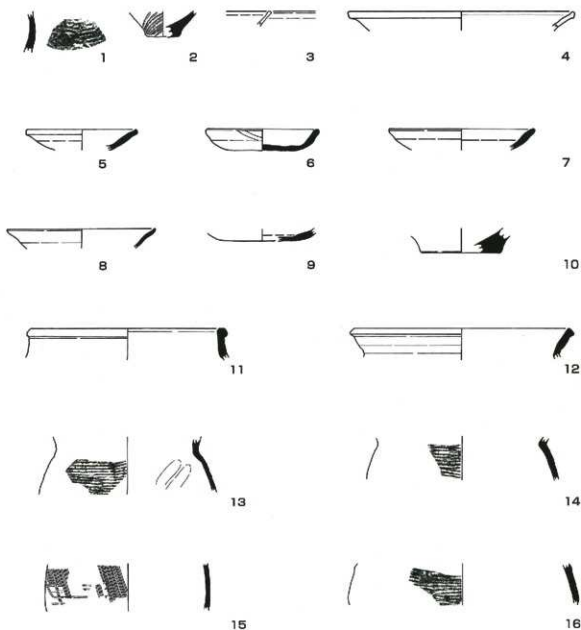


図11 出土遺物

で直径24cmをはかる。5～9は土師器の皿と考えられるもので、口径が12cm～16cmの範囲に当てはまるものである。10は、壺の底部と考えられる。11～16は鍋と考えられ、11のように口縁が直に立つタイプとやや開き気味になるタイプのものが見られる。

13, 14, 16は体部で外面に平行タタキを有する。15は平行タタキの上からハケによるナデを施す。

1, 2は弥生土器の可能性をもつが、他の須恵器と土師器に関しては中世と考えられる。

○まとめ

遺構は、土抗状のものやp i tが見られたが、集落的なものかどうかは限られた範囲により判然としませんが、集落遺跡の可能性が高い。

地形的には、低位段丘面ということで、氾濫原も見られたが微高地状の地形が存在する部分に遺構や遺物が見られる。

調査区7、8及び調査区1、2からクロボク層の広がりや北東から南西にかけて溝状にかかる状況にあり旧地形のあり方を考える上での参考となりうる。遺物及び遺構はこのクロボク層の上層から出土もしくは検出されており、遺跡の広がりやクロボク層の広がりには比例しないところもある。ただ、調査区10のp i tはクロボク層上層から確認できたものではないことや、遺構内埋土についてもクロボク層的な質感があり、下層遺構の可能性もある。

遺物の時期も、中世の土師器で鍋類が中心となり、一部皿類も見られる。日常的な食器類から集落的な要素を持つものと理解してもいいかもしれないが、墓にも同様の遺物が供献されることもあることからもう少し広範囲の調査を持って確認する必要がある。しかし、今回の、開発に伴う調査においては最小限にとどめ遺跡の有無とその広がり時代的な要素を知ることができたことは意義が大きいといえる。

福田東田黒遺跡は、当初は福田条里といわれる条里地割りのな部分に該当することから条里関連のものが確認できるかもしれないと考え調査を行ったが、その後、福田条里は条里といえるほどの地割りをもたず、今回遺跡地図からも福田条里としては削除し、新たに発見された遺跡を元に該当する範囲を新規の遺跡として登録するにいたった。この場所も、新発見の遺跡として、福田東田黒遺跡として登録を行った。

この周辺には、遺跡と考えられる場所が、山麓部や段丘上の一部に知られているのみで、このたびの周辺では余り知られていなかった。市川の氾濫原ということから確認調査の際にも砂礫層が顕著に見られて、遺物の出土が皆無のところほとんどであった。他の場所でも、微高地上に遺跡が広がる場所も知られるようになり、ここも、氾濫原の中に存する微高地（自然堤防）と呼べるような場所に作られた遺跡の一つとして理解したい。

また、中世の遺跡が、江戸時代から続く集落に余り隣接することなく確認されたことは、中世集落の在り方を考えるうえでの一つの材料を提供してくれた。

この場所は、個人住宅の分譲という形になることから、遺構面への工事による影響はないとの判断が出来たことから、工事着工としてもらい対応した。

4 西田原堂ノ前遺跡

調査地区 神崎郡福崎町西田原字堂ノ前1329番ほか
調査主体 福崎町教育委員会
調査担当 出田 直 (福崎町教育委員会)
調査期間 平成19年5月14日 (月)

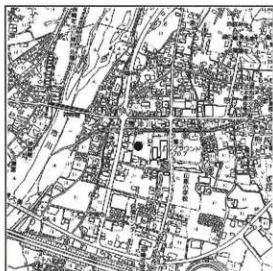


図12 調査場所位置図

○調査に至る経過

開発申請に伴う事前調整があり、開発前に試掘調査を実施し遺跡の有無を調べる必要があると判断し協力を得て調査を行った。

○調査方法

耕作土等は重機により掘削し、壁面等は人力により精査した。その際、適宜写真や図面により記録をとった。

○調査概要

周辺の地理的歴史的環境

地形区分上は、高位段丘面に位置する。西は市川が南流し北には雲津川が西流する。字堂ノ前が対象地となるが、その西側に字橋詰、北側に川ノ上という場所が存在する。微地形で判断すれば字橋詰においては若干低くなる傾向にあり、字堂ノ前が一段高くなっていることがわかる。高位氾濫原の中にも地形の高低が存在し、微高地地形が存在していることがわかる。

南方に、創建年代は不詳としながらも、元は庵寺であったと伝えられ、中世には田原地区内に存在する同程度の寺院の可能性も残る安徳寺が存在する。安徳寺には、安徳天皇の眼病治療にまつわる伝説が残る桶川の泉が存在し、その周辺の調査の際に、旧石器時代のナイフ形石器や遺跡の中心時期である中世の土器や柱穴も確認され、安徳寺とのかかわりを強く持つと考えられる南田原桶川遺跡がある。それ以外には、近世の寺院である西源寺が西方に建ち、雲津川の北西には西野区の田嶋神社が鎮座する。

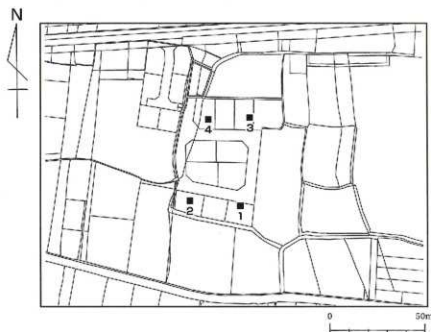


図13 調査区配置図

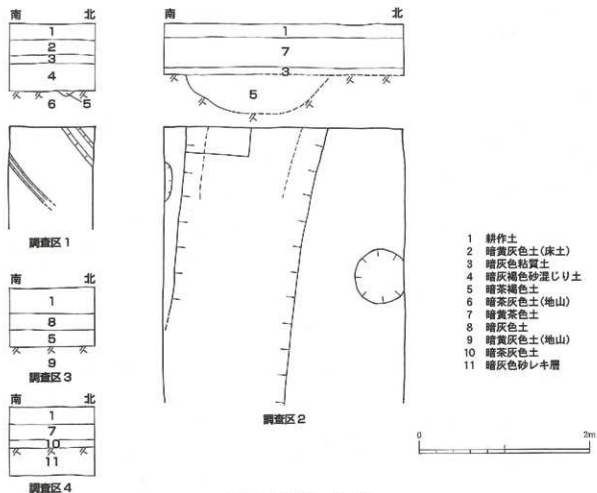


図14 遺構図・土層図

調査区の概要

調査区は、開発予定地内に4箇所設定した。旧の水田の様子を参考にしながらもほぼ端々を押さえることで周辺の様子がわかるように配慮した。

調査区1

開発予定地内の東南端に設置した調査区である。耕作土直下に約18cmの床土が確認され、その下に、暗灰色粘質土の遺物包含層が確認された。その直下の土層には遺物が顕著には見られなかったが、地山面には、溝状遺構と考えられるものが検出された。この中からは遺物は出土していないが遺構と考えたい。

調査区2

開発予定地の西南端に設置した調査区である。耕作土及び床土と考えられる土層が50cmあり、その下層に調査区1で確認された、暗灰色粘質土の遺物包含層が見られた。この下層が地山面となり、溝状遺構と共にpitが検出された。

溝状遺構については、一部掘削しその深さ等を確認した。深さは45cmを測り幅が最大180cmになるものである。pitについては、上面検出のみとし掘削は行っていないが直径約60cmになるものが2箇所確認されている。包含層より下の地山面に掘り込まれている。

調査区3

北東端に設置した調査区である。50cm下で暗茶褐色土の遺物包含層があり、その下が地山面となっている。

調査区4

北西端に設置した調査区である。全ての面で確認できた遺物包含層がここでも確認できた。暗茶灰色土の包含層が見られ、遺物の出土があった。

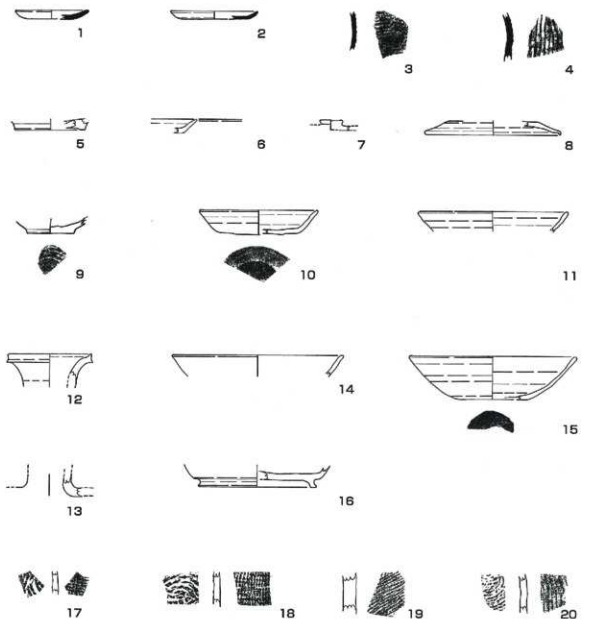


図15 出土遺物

遺構 (図14)

調査区1からは、溝状遺構が確認されたが、調査区2とのかかわりはよくわからない。溝についても南西方向から北東方向にのびるものであり、調査区2については幅が180cm深さ45cmを測る溝状遺構であり、西に向かって延びる。西は、段差がある地形になっており、その方向に伸びることが考えられる。溝状遺構をまたぐ形でpitが2基確認でき、柱穴と考えられるかもしれないが、現調査区内では詳細はわからない。

遺物 (図15)

調査区1と調査区2から主に出土した。

1, 2は土師器の皿で口径8~10cm程度になる小皿と呼べるものである。3, 4は外面にタタキをもつもので鍋の体部と考えられる。5, 16は杯の底部と考えられる。6は須恵器の皿と考えられるが、口径の復元までにはいたっていない。7は、須恵器の蓋のつまみ部分で8も蓋と考えられる。9, 10, 11, 14, 15は杯としてくれるものであるが、10は底部をヘラきりによって切り離しており、9と15の糸きりによる手法とは異なっている。11, 14, 15は山茶碗である。12, 13は長頸壺と考えられ、同一個体かどうかは定かでないが、関連する可能性が高いものである。17~19は外面にタタキをもつ須恵器の甕と考えられるもので、17, 18, 20は内面に同心円文のタタキをもつ。

奈良時代から中世にかけての遺物が見られ、長期にわたる遺跡の存在が示唆される。奈良時代のものとしては、須恵器の杯があり、他には蓋や壺や甕も見られる。土師器も含まれているが、中世に見られる鍋類と考えられる。

〇まとめ

周知の遺跡としては、今まで知られていなかったが、字名が堂ノ前ということから、何らかの建物の存在が想定できた。しかし、周辺が氾濫原でありこの場所自体も高位段丘面という地形区分としても遺跡の存在は薄いものがあると思われた。

調査の結果、対象地内からは遺物包含層をはじめ、遺構が確認され遺跡が広がることがわかった。

遺構の性格は定かでないが、字堂ノ前からして建物に関連する遺構と考えておきたい。一部ではあるが、調査区内からは瓦などは見つかっていないことから、堂(建物)は瓦葺ではなく、茅葺などの建物の存在を考慮する必要があると思われる。

時代も、奈良時代の遺物を含み中世までの間の遺物が見られることから、長期にわたり遺跡が存続していたことも伺える。

当初、周知の遺跡外であり、遺跡名は字名を冠し、西田原堂ノ前遺跡とした。この開発計画では、既存の造成地以外は切土工法を用いず、盛土工法で行うことになっており、それによって遺跡内の遺構面が傷つく恐れは無いものといえ、慎重工事に対応することになった。

5 南田原地区（西光寺）

調査地区 神崎郡福岡町南田原字焼堂1320
- 1 番地

調査主体 福岡町教育委員会

調査担当 出田 直（福岡町教育委員会）

調査期間 平成19年7月19日（木）

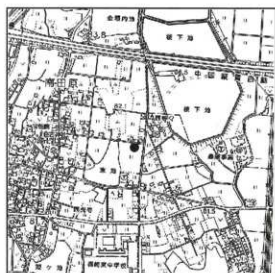


図16 調査場所位置図

○調査に至る経過

個人住宅建設に伴う事前調整があり、開発前に試掘調査を実施し遺跡の有無を調べる必要があると判断し協力を得て調査を行った。

○調査方法

耕作土等は重機により掘削し、壁面等は人力により精査した。その際、適宜写真や図面により記録をとった。

○調査概要

周辺の地理的歴史的環境

地形区分上は、段丘面に位置する。西には東池が存在し、東池に向かって地形が傾斜して、低くなっているのがわかる。東に向かっては高くなる地形になっているが、水田耕作などの際に、かなりの削平を受けていることが考えられる。周知の遺跡として押さえられているものはないが、西光寺の地名はここに西光寺という寺院があったからであるという伝承や文献にも登場する。地名から寺域の推測もされているが、字焼堂ということから、堂の存在も示唆されている。堂が焼けたから焼堂となったということである。

西光寺に関連するものとしては、塔頭の一つである金鶏山宝性院が存在する。そこには古墳時代の石棺の蓋石も存在し、周辺にあった古墳の存在を示唆する。しかし、古墳は、西光寺野開墾により消失してしまった可能性が指摘されている。

調査区の概要

調査区は、開発予定地内の北西角に1箇所設定した。

調査区1

耕作土直下に約28cmの暗茶褐色シルト層（クロボク）が確認され、その下に、明黄色粘土の地山層が確認された。遺構遺物とも確

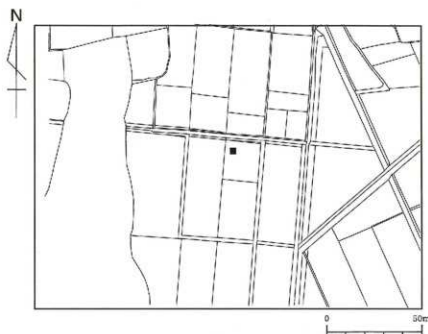


図17 調査区配置図

認められなかった。

遺構

確認されなかった。

遺物

出土しなかった。

○まとめ

西光寺の地名由来としての場所と考えられており、焼堂という字名から、堂の存在が示唆されていた。また、堂の焼失という点から「焼堂」とついていたといわれており、焼土の存在も確認できるかもしれないという期待感もあった。

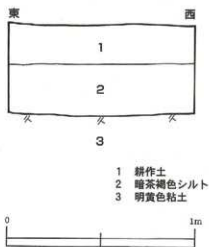


図18 土層図

今回の調査区は、個人住宅という点や周辺への影響も考慮して、北西面に1箇所設定したに過ぎず、制約のある内容になっているが、顕著な遺構は確認されなかったとしても焼け土の存在は確認できないかと期待したが、焼け土の存在も確認できなかった。遺物に関しても皆無であった。

遺跡としては、認識できないような状況であったが、今後の周辺の調査において西光寺の古代寺院の存在が明らかになることを期待したい。

結果、遺跡と認識できるものが確認できず、工事は差し支えないものとした。

6 駅前地区

調査地区 神崎郡福崎町福田字町田377-1
番地

調査主体 福崎町教育委員会

調査担当 出田 直 (福崎町教育委員会)

調査期間 平成19年8月7日(火)

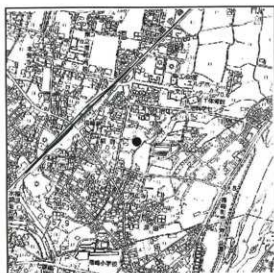


図19 調査場所位置図

○調査に至る経過

住宅開発に伴う事前調整があり、開発前に試掘調査を実施し遺跡の有無を調べる必要があると判断し協力を得て調査を行った。

○調査方法

耕作土等は重機により掘削し、壁面等は人力により精査した。その際、適宜写真や図面により記録をとった。

○調査概要

周辺の地理的歴史的環境

地形区分上は、氾濫原に位置する。西には低位の段丘面に位置づけられる地形が存在している。現地形においても調査対象地から東にかけては、低くなっているのがわかる。隣接して知られている遺跡は無いが、北東に福田東田黒遺跡が新たに発見され、氾濫原内における微高地において中世の遺跡の広がりが確認されている。

調査区の概要

調査区は、開発予定地内の南西角に1箇所と中央に1箇所の合計2箇所を設定した。南西を調査区1とし中央のものを調査区2とした。

調査区1

耕作土は既に取り除かれていたので床土以下の埋土を確認した。床土と考えられる約10cmの暗茶灰色土が確認され、その下に、明灰色シルト質土の堆積が確認された。ここからは、栗ないしは檜と考えられる樹木の植物遺体が顕著に見られた。流木と考えられ氾濫原であることから市川の氾濫によって流され

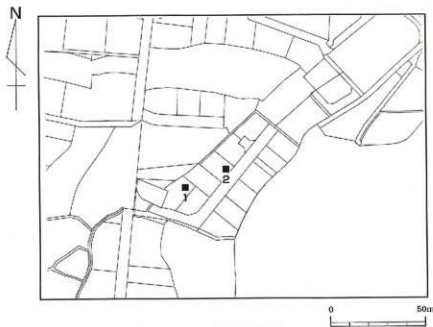


図20 調査区配置図

たものと考えられる。その下層からは、暗灰色粘質土や灰色砂層の堆積が確認されいづれも氾濫原に伴う堆積と認識できた。

遺構は確認されなかったが、遺物は、床土と考えられるところから少量出土した。2次堆積と考えられることから遺跡として扱えるものではない。

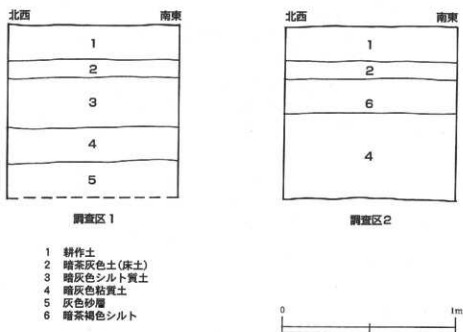


図21 土層図

調査区2

同様に耕作土は取り除かれていたので、床土と考えられる層以下を掘削して調査した。

調査区1と同様に約10cmの暗茶灰色土の床土が堆積し、中から須恵器と土師器の出土があった。調査区1と同様に2次堆積と考えられるもので遺跡としては認められないものといえる。

以下、暗茶灰色シルト層、暗灰色粘質土と続き、暗灰色粘質土からは植物遺体を多量に含んでいた。



遺構

確認されなかった。

遺物

床土から須恵器と土師器が出土した。



図22 出土遺物

○まとめ

氾濫原という性格上、遺跡の存在は無いものと想定されたが、床土から遺物の出土があったことは、新知見であった。西側には低位の段丘面が広がり、そこからの2次堆積の可能性もあり、遺跡は西側に広がる可能性を示唆する。

西側の調査の機会を待ちたい。

この調査区内は、氾濫による堆積と考えられる土層堆積が見られ、植物遺体はあるものの土器など遺跡に伴うような遺物の出土は見られなかった。

このことから、遺跡としての範囲にはあたらないとすることができる。

結果、遺跡と認識できず、工事は差し支えないものとした。

7 西田原地区（北野）

調査地区 神崎郡福崎町西田原字中ノ谷444
- 18番地ほか

調査主体 福崎町教育委員会

調査担当 出田 直（福崎町教育委員会）

調査期間 平成19年9月10日（月）



図23 調査場所位置図

○調査に至る経過

ため池土取り場の範囲内に遺跡があるかどうかの事前調整があり、開発前に試掘調査を実施し遺跡の有無を調べる必要があると判断し、地元北野区の協力を得て調査を行った。

既存の古墳の範囲等を示すことにより、土取り場の計画を検討してもらった。

○調査方法

対象地内においては既存の調査場所が含まれており、そこは対象外とし未調査場所を対象地として表土等は重機により掘削し、壁面等は人力により精査した。その際、適宜写真により記録をとった。

○調査概要

周辺の地理的歴史的環境

地形区分上は、段丘に位置づけられる。この面は、日光寺山から続く山塊から派生し、丹波帯の中の加西層群となる。段丘面に位置づけられる地形部分は標高100mから120mまでの間はなだらかになり、それを境に傾斜がきつくなる。今回の対象地の北には隣接して池ノ谷中池とそれにつながる小ため池が2基存在している。南側は北浦谷になり、谷の中を小河川ではあるが谷川が西流している。

ここには、大畑古墳群が存在することが知られており、段丘上には、1基が存在し、池ノ谷中池に接して1基、池の奥に1基知られている。もう1基あったといわれているが、段丘面の西端と考えられているが定かでない。池ノ谷中池の工事の際に、南側壁面から須恵器の出土があった。須恵器の状況から窯に伴うものと考えられた。また、北浦谷の中に古墳が1基確認されている。

古墳時代以前の遺跡としては、西田原穴田遺跡で縄文時代の土器や石器が出土しており、古くからの遺跡が知られている。

調査区の概要

調査区は、開発予定地内の門扉から約50m奥に入ったところの道路北側部分で20mの溝を掘って遺物等が出土するかどうかを確認した。2箇所に分けて確認しており、東側を調査区1、西側を調査区2とする。

調査区1

周辺は、アカマツ並びに各種雑木が繁茂しているが、重機を用いて表土と埋土を掘削した。

途中に松の根などもあったが、遺物等の確認ができない限りは掘削した状況のまま確認作業に入った。

表土の下には、白赤褐色の山土が堆積し、約50cm（重機のバケツ1杯程度）ほどで、味噌岩が出てきて地山面という認識ができた。

約20m掘削をかけたが、遺物並びに遺構は確認できなかった。

調査区2

調査区1と同様であり、遺構や遺物は皆無であった。

遺構

確認されなかった。

遺物

皆無であった。

○まとめ

池ノ谷中池の工事の際、壁面からの遺物の出土や窯と考えられることから、今回調査対象とした場所に何らかの遺構が存在するか、もしくは遺物の出土が考えられたが、今回の場所では確認することができなかった。方向的にまだ、東の傾斜地になる可能性があるが、この段階では判然としない。

遺跡としては考えにくい部分であり、この範囲までは遺跡の広がりが見られない。

一部、過去の調査の際に遺物の出土があった場所に関しては、注意する必要があるが、遺物量（須恵器の細片数点）と出土状況から上の方からの流れ込みの可能性が強く、窯跡に伴うもの可能性があり、池ノ谷中池遺跡の窯の可能性のある部分に注意する必要がある。古墳に関しては、位置を明確にし、広範囲にわたって対象外とすることにより、保護が図れるのではないかと考えられる。

今回の調査地区に関しては遺跡の範囲外とすることができ、遺跡の広がりを想定する上で、絞込みができた。

現段階では、樹木や地形の状況から掘削を施すことができない場所もあり、可能性の高いところを除外することにより、工事可能範囲を明示することができると思われる。また、同様に、大畑古墳に関しても、現況確認できる範囲を含めて工事対象外を広くすることにより遺跡の保護が可能であり。工事対象地区から除外することにより同様に工事が可能と考えられる。

ただし、工事車両の通行に現山道を利用するならば古墳に影響の無い方線を検討し、遺跡の保護に努める必要がある。

8 新町地区（福崎幼稚園建設予定地）

調査地区 神崎郡福崎町福崎新字中島454番地2ほか

調査主体 福崎町教育委員会

調査担当 出田 直（福崎町教育委員会）

調査期間 平成19年10月12日（金）

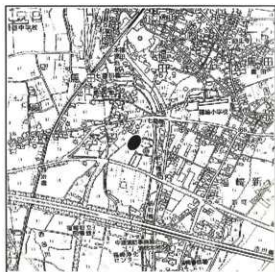


図24 調査場所位置図

○調査に至る経過

統合保育所建設に伴う事前調整があり、開発前に試掘調査を実施し遺跡の有無を調べる必要があると判断し協力を得て調査を行った。

○調査方法

耕作土等は重機により掘削し、壁面等は人力により精査した。その際、適宜写真や図面により記録をとった。

○調査概要

周辺の地理的歴史的環境

地形区分上は、高位氾濫原に位置する。東側には七種川が南流する形で隣接している。周辺の遺跡としては、図書館建設地に隣接し、弥生時代から中世にかけての遺物の出土があった西治二反田遺跡が知られており、それ以外の遺跡は皆無とってよい。しかし、西治二反田遺跡のように新たに発見される可能性もある。

調査区の概要

調査区は、開発予定地内に6箇所設定した。周辺の状況等を考慮し基本的に1筆1箇所以上としたが、周辺の状況で判断できるところは、設置しなかった。

調査区1

現幼稚園から北側の468-6に設置した調査区である。

耕作土は直下には、暗黄灰色土の床土があり、以下は、七種川等の氾濫原に堆積した砂礫層が確認できた。床土下層には、1.5cmの茶灰色砂礫層があり直径5～10cmの石を含んでいる。堆積層も分割でき、茶褐色砂礫層が4.5cmあった。上層

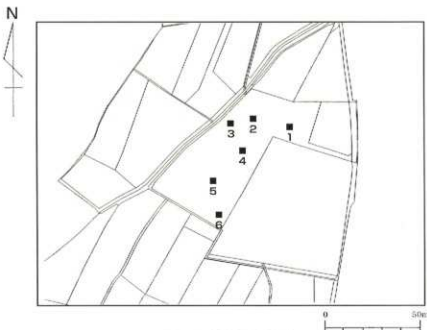
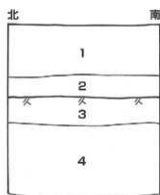
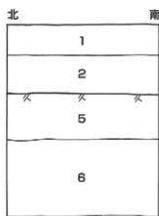


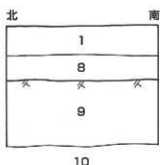
図25 調査区配置図



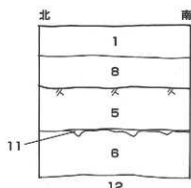
調査区1



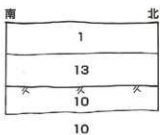
調査区2



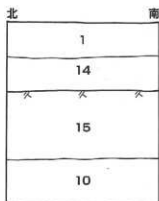
調査区3



調査区4



調査区5



調査区6

- 1 耕作土
- 2 暗黄灰色土(床土)
- 3 茶灰色砂レキ層
- 4 茶褐色砂レキ層
- 5 灰色砂層
- 6 暗茶褐色砂層
- 7 茶褐色砂レキ
- 8 暗黄色土(床土)
- 9 暗灰茶色砂層
- 10 暗灰色砂レキ層
- 11 マンガン
- 12 暗茶灰色砂レキ層
- 13 暗茶灰色土(床土)
- 14 暗黄灰色レキ混じり土
- 15 暗灰色砂層



図26 土層図

との境にマンガンの付着が顕著に見られることから、一時期水がたまっていたことを示すものと考えられる。

調査区2

現幼稚園から北西の469-3に設置した。調査区1と同様に床土以下は砂礫堆積層であるが、暗灰色土(床土)に関しては、25cmあり、水持ちを意識していると考えられる。以下、砂礫堆積層は、灰色砂層30cm、暗茶褐色砂層50cm、直径2~10cmの石を含む茶褐色砂礫層と続く。

調査区3

現幼稚園から北西の463に設置した。開発予定地の最西端に位置する調査区であり、床土以下の砂礫層の堆積は同様であった。床土の下層には暗灰茶色砂礫層が45cmあり、それに暗灰色砂礫層が続く。

調査区4

現幼稚園から西の465-1に設置した。調査区1と同様に床土以下は砂礫堆積層であるが、灰色砂層が30cmあり、暗茶褐色砂層30cm、暗灰茶色砂礫層へと続く。灰色砂層の下にはマンガンが見られ、調査区1と同様の状況が採取でき、調査区1から調査区4にかけて水の堆積があったことを示すと考えられる。

調査区5

現幼稚園の西454-2に設置した。調査区4の南に位置する。床土以下は砂礫堆積層であるが、暗灰色砂礫層(直径3~5cmの石を含む)が20cmあり、暗灰色砂礫層(直径10~20cm)へとつづく。

調査区6

現幼稚園の西454-2に設置した。開発予定地内の最南端の調査区であり、床土以下は砂礫堆積層であるが、暗灰色砂層が45cmあり、ここには直径10~15cmの石を含む。暗灰色砂礫層には直径3~7cmの石を含む。

遺構

確認されなかった。

遺物

出土しなかった。

〇まとめ

氾濫原という性格上、遺跡の存在は無いものと想定されたが、床土以下に砂礫層の堆積がみられ、遺物の出土も皆無であったことは遺跡の広がりとは考えられず遺跡外とすることができる。

遺跡と認識できるものが確認できず、工事は差し支えないものとした。

9 山崎地区

調査地区 神崎郡福岡町山崎字スガキ531番地ほか

調査主体 福岡町教育委員会

調査担当 出田 直 (福岡町教育委員会)

調査期間 平成19年10月17日(水)



図27 調査場所位置図

○調査に至る経過

集合住宅開発に伴う事前調整があり、開発前に試掘調査を実施し遺跡の有無を調べる必要があると判断し協力を得て調査を行った。当初、7月20日付けで依頼文書の提出を受け、7月中の調査を行う方向で調整したが、稲作のため刈入れ後の10月において調査することになった。

○調査方法

耕作土等は重機により掘削し、壁面等は人力により精査した。その際、適宜写真や図面により記録をとった。

○調査概要

周辺の歴史的環境

地形区分上は、低位氾濫原に位置する。東側には市川が南流する形で隣接している。対象地のすぐ北の段丘上に中世の土器が出土し、集落跡と考えられる福田東田黒遺跡が存在する。この北方には、古墳時代後期の円墳で横穴式石室を有する大塚古墳がある。

それ以外の遺跡としては知られていないが、周辺の試掘調査等で土器の出土が確認されることも有り、周辺に遺跡の存在を示唆するものとなっている。

調査区の概要

調査区は、開発予定地内に4箇所設定した。基本的に1筆2箇所設置した。

調査区1

対象地の西端に設けた調査区であり、基本的に耕作土、床土(暗茶灰色土)があり、その下層に、砂礫層の堆積が確認できた。調査区1からは、床土直下において、暗灰色礫層があ

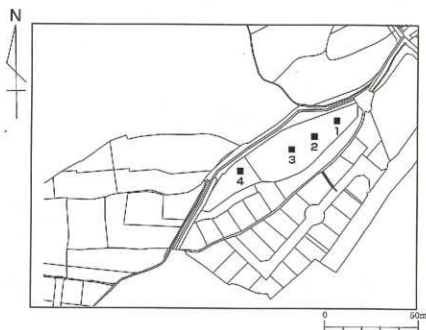


図28 調査区配置図

り、直径10～20cmの石が密に見られた。一見して堆積層というよりは、暗渠的な性格を有する状況に見られた。その下層には、暗茶褐色土の堆積があり、同様の土は東田黒遺跡からも確認され、遺物の出土が見られたところである。ここでも、同様に細片ではあるが土師器の出土が1点あった。しかし、土層堆積の状況等から判断すると、2次のな移動が考えられるもの

で、北の上位面に位置する福田東田黒遺跡からの流れ込みと考えることができる。

この下層には、暗灰色砂層がみられ、市川の氾濫原の堆積と考えられる。

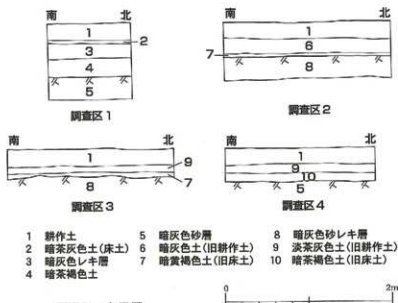


図29 土層図

調査区2

現耕作土直下には、暗灰色土の旧耕作土が見られ、その下層には3cm程度であるが、床土が見られた。ここから、土師器の出土があったが、床土の性格上2次のな移動が考えられるものである。

床土直下には、暗灰色砂礫層があり、直径5～20cmの石を含んでいる。これも市川の氾濫原の堆積と考えられる。

調査区3

調査区2と同様に現耕作土直下には、旧耕作土があり、その下には床土が見られる。その下層には、暗灰色砂礫層（直径5～20cmの石を含む）の堆積になり、西より東にかけて浅くなっている傾向にある。

調査区4

調査区3と同様の堆積と考えられ、旧耕作土から須恵器1点が出土した。これも、2次のな移動と考えられる。

遺構

確認されなかった。

遺物

須恵器と土師器が出土した。2次のな移動となり、遺跡としては問題ないと判断できる。

〇まとめ

氾濫原という性格上、遺跡の存在は無いものと想定されたが、床土以下砂礫層の堆積がみられ、遺物が出土するも2次の移動と考えられ遺跡の広がりや考えられず遺跡外とすることができる。結果、遺跡と認識できるものが確認できず、工事は差し支えないものとした。

10 桜遺跡

調査地区 神崎郡福崎町高岡字梨ノ木1492番3

調査主体 福崎町教育委員会

調査担当 出田 直 (福崎町教育委員会)

調査期間 平成19年11月7日 (水)



図30 調査場所位置図

○調査に至る経過

個人住宅建設に先立ち事前調整が行われ、周知の遺跡の範囲に含まれる場所であり、確認調査の必要性があることから協力を得て調査を行った。

○調査方法

当該地に、1箇所の調査区を設けた。盛土等を重機により掘削し壁面等は人力で精査した。その際、適宜写真や図面により記録を作成した。

○調査概要

周辺の地理的歴史的環境

地形区分上は、段丘面となり、すぐ南に2級河川である七種川が南東方向に流れる。この段丘面に現在の桜集落が立地する。平安時代の遺物が散布することから、散布地として桜遺跡があるが、周辺には当該地から西には縄文時代の遺物が出土したと伝えられる林谷遺跡があり、東には平安時代の遺物の散布する狐塚遺跡、古墳時代の古墳である塩田山東1号墳・2号墳が知られている。

古墳からは、遺物の出土があったことが伝えられているが詳細は定かでない。また、遺構が確認されている遺跡も無く詳細な状況はわからないが今後の調査の新展開を待ちたい。

調査区の概要

調査区は、建物配置と今後の建設予定の状況により設置箇所を決定し、地内の北東に1箇所設置した。

調査区1

申請時は、既存建物が無く平地であったが、過去、この場所は建物があった場所で、その時の盛土がされていた。

土層は、盛土が60cmありその下層には10cmほどの敷土を施し、

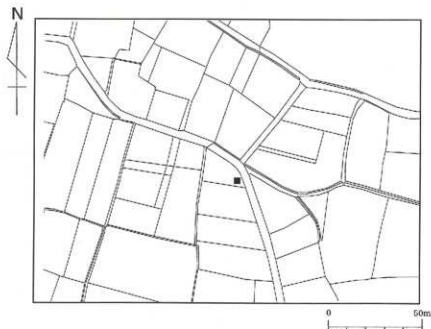


図31 調査区配置図

旧の耕作土面との境を明瞭にしている。その下層には、淡茶灰色土の旧耕作土等の土が見られ耕作土の基盤として淡黒茶色土に直径10～20cmの石を含む層があり、淡茶灰色土の地山面に続く。

遺構

確認されなかった。

遺物

出土しなかった。

○まとめ

散布地内に位置づけられるが、遺構遺物共に皆無である。散布地内で遺跡として考えられているが、今後周辺を調査することによって、遺跡の規模と性格を押さえて行きたい。

既設の盛土は60cmの厚みをもち、その下層にも60～70cmの旧耕作土等の層が続く、遺構面の存在が考えられる面は地山面直上くらいと考えられる。今回の、工事による掘削深度は深いところで70cmとなり既存盛土の上面からみても70cmでは旧耕作土面までしか達せず、工事には支障ないものと考えられた。

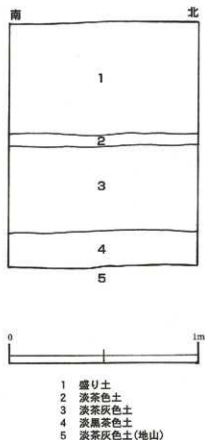


図32 土層図

1 1 田口地区（ほ場整備予定地）

調査地区 神崎郡福崎町田口512番地ほか
調査主体 福崎町教育委員会
調査担当 出田 直（福崎町教育委員会）
調査期間 平成19年11月7日（水）
～平成19年11月9日（木）

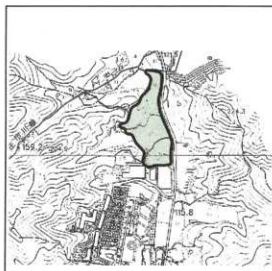


図33 調査場所位置図

○調査に至る経過

圃場整備事業による区画整理の範囲内に遺跡があるかどうかの事前調整があり、開発前に試掘調査を実施し遺跡の有無を調べる必要があると判断し、地権者等の協力を得て調査を行った。

○調査方法

対象地の表土等は重機により掘削し、壁面等は人力により精査した。その際、適宜写真により記録をとった。

○調査概要

周辺の地理的歴史的環境

地形区分上は、対象地の低い部分は谷底平野に位置づけられる。また、西側の小さな谷地形のところは扇状地となっている場所である。

西側の扇状地は、塩田山から伸びる尾根状地形の端部に形成される。谷の中には小河川の塩田川が南流し、灌漑用の塩田池が作られている。「塩田の谷」と呼ばれるところには、塩田池の南東に塩田山東1号墳・2号墳が知られ、塩田山東2号墳の西には、平安時代の遺物の散布する狐塚遺跡が知られているのみである。

塩田山東1号墳・2号墳からは遺物の出土があったことが伝えられているが詳細は定かでない。また、遺物の散布が見られることから遺跡と認識しているが、顕著な遺構などが見つかっておらず、遺跡の性格としては不明瞭なものが多いのが現状である。

この谷の中に走る南北の道は、江戸時代には存在していたと考えられ、北端には西国三十三所巡礼道が走る。この街道等には人の往来があったことが想像できる。

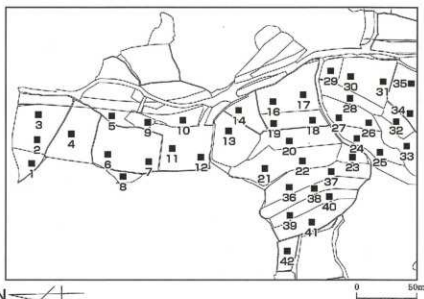


図34 調査区配置図

現在近畿福祉大学となっている付近には、戦中に造られた弾薬保管庫である、通称弾薬庫が掘られていた。当調査対象地に隣接して、1基が確認できる。

調査区の概要

調査区は、地図上で42箇所設定した。しかし、現況では既存樹木や調査に支障をきたす部分に関しては、割愛し番号は欠番とした。欠番の調査区は5, 9, 10, 15の4箇所になる。

基本的に、1筆に1箇所設定し、大きな田については、2箇所設定したものもある。最終的には合計38箇所を試掘を行った。

調査区1

対象地内の北端に位置する調査区である。扇状地に当たる部分であり、耕作土直下には、暗緑灰色土の床土が5cm程度あり、その下層には灰色砂層、暗灰色粘土と続く。

調査区2

調査区1と同様であり、遺構や遺物は皆無であった。

調査区3

同一の田となっているが、盛土と考えられる白灰色土や淡茶灰色土等の堆積が見られた。あまりにも違う堆積からこの田は、合筆して一つにした可能性が指摘できる。

遺構や遺物は皆無であった。

調査区4

耕作土や床土の下には、淡灰色砂質土、暗灰褐色粘土、淡灰色粘質土の層が続き、西側から続く尾根状地形の一部に当たると考えられ、地山面は灰白色粘質土となっている。

調査区6

耕作土から下にはかなり厚めの床土があり、暗緑灰色粘土層へ続く。この層からは風倒木の可能性もあるが、道木可能性の有る木が2本平行して見られた。他に暗渠のあった調査区もあるが石を伴わない点が多と異質である。よって、自然木の可能性のほうが高い。

調査区7

調査区6とはほぼ同じ層となり、調査区6で見られた木があった堆積は、ここでは、黒灰色粘土層になり植物遺体が含まれる。

遺物はなかった。

調査区8

谷底平野の一端に当り、暗灰色粘質土と暗灰褐色粘土層があり暗青灰色土の地山面へ続く。立地から排水を考えて暗渠が造られているのが確認できた。

調査区11

耕作土の下には旧耕作土と旧床土と考えられる土層が見られ、黒色粘土には植物遺体が

見られる。遺物は確認できなかった。

調査区 1 2

耕作土の下には25cm程度の床土があり、灰色粘土、黒褐色粘土へと続く。黒褐色粘土層からは、植物遺体が出土し、一部のものには鋭利なもので切り取ったようなものが見られる。木の表面からサクラである可能性が高い。ここからは、他に時代が特定できる遺物の出土はなく、時代的には不明といわざるを得ない。

調査区 1 3

耕作土の下には、暗緑灰色粘質土の層があり暗灰褐色土層と続く、その下層には、暗黒灰色粘土層があり、植物遺体が見られる。中には土器片があり、土師器の皿と考えられる。時代的には特定できるものではなかったが、遺物の出土は貴重なものがある。

調査区 1 4

調査区 1 3と同じ土層であり、暗黒灰色粘土からは植物遺体が出土したものの遺物の出土はなかった。

調査区 1 6

耕作土の下に暗灰色土が20cmあり暗青灰色土の地山へ続く。地形的には高位部分にあたり、南の調査区 1 7に向かって傾斜している感がある。

調査区 1 7

耕作土直下には余り他には見られない盛土を50cmほどに厚く施し床土にしている。下層には暗黒褐色土層があり植物遺体が見られた。

調査区 1 8

耕作土から暗灰色粘質土へ続き、植物遺体を含む黒褐色粘質土がある。この層は調査区 1 7では100cmであったのが、調査区 1 8では30cmになっている。谷底平野の地形が西に向けて高くなっていることがわかる。

調査区 1 9

調査区 1 8と同様の土層である。

調査区 2 0

扇状地の端部となり、耕作土直下に暗黄灰色土の床土の下には暗灰色土の地山面となっている。

調査区 2 1

床土の直下には淡灰色粘土と黒褐色粘土が見られた。黒褐色粘土は植物遺体を含む。ここは、扇状地の中でも小谷地形の堆積と考えられたが、他を調査する内にこの調査区の堆積が異質となっている点から池状の水のたまりがあった場所では無いかと考えられる。

調査区 2 2

扇状地の端部となり、耕作土直下に暗茶灰色土の床土があり下には暗灰色土と淡茶褐色土層に続く。

調査区 2 3

調査区 2 2 と同様に扇状地端部となり、耕作土と床土の下には暗灰褐色土層が見られ、直径 5 ～ 15 cm の石を多量に含む暗茶色土層の堆積が 8.5 cm 見られる。この面は地山面と判断することができる。

調査区 2 4

現在の土地利用において農道を境に北と南で段差が見られ調査区 2 3 と調査区 2 4 とは耕作土面において落差が大きい。この農道を境に南は谷底平野においても低い部分になる。現耕作土の下に旧耕作土並びに旧床土がみられその下には淡茶灰色土の地山になる。

調査区 2 5

耕作土の下に旧耕作土があり、旧床土が確認できない。このような状況では、水持ちが悪かったことが想像でき、旧耕作土を床土代わりにして現耕作土を作っているのであろうか。

調査区 2 6

耕作土直下の床土部分は暗黒灰色粘質土や暗青灰色粘土層となっており、一部グライ化しているような状況である。地山面までの状況から扇状地の端に位置する場所である。

調査区 2 7

耕作土と床土の下には、旧耕作土と旧床土が認められ、明黄灰色粘土層の地山へと続く。これも扇状地の端に位置する場所といえる。

調査区 2 8

谷底平野の一部と考えられる場所であり、暗茶褐色土、暗緑灰色土層へと続く。

調査区 2 9

東にある坂戸山から伸びる地形の端部と考えられ、地山面までは浅い地形となっている。

調査区 3 0

調査区 2 9 から続くような土層であり、地山面まで比較的浅い。谷底平野の地形で見られたような植物遺体を含む層は見られていない。

調査区 3 1

耕作土直下には暗灰色土があり、ここの谷底平野の特徴的な堆積である植物遺体を含む層が暗黒褐色土があり、下層には暗青灰色土の地山に続く。地山との境から土師器（皿）と、焼けた跡がある木、加工の有る板が出土した。

調査区 3 2

耕作土の下には暗灰色砂質土と暗黄茶色土層がみられた。植物遺体を含む層は見られなかった。

調査区 3 3

耕作土直下の層は整地土と考えられる層で、ここに暗渠が作られている。

調査区 3 4

調査区 3 2 と同じく植物遺体を含む層が見られない。同一の田ではあるが旧地形の状況によって特徴的な土層の有無がある。

調査区 3 5

調査区 3 1 と同じような土層であるが、遺物は含まれていない。

遺物は、点的な広がりであろうか。

調査区 3 6

扇状地の中の谷地形のところに該当すると考えられ、谷地形の暗灰色粘質土の堆積が認められた。調査区 2 1 とは明らかに違う堆積である。

調査区 3 7

調査区 2 2 と同じ堆積であった。尾根状地形の続きと考えられるが、若干谷部にかかるために石が含まれる堆積になっているのだろうか。

彈薬塚が損られている山については石を殆ど含んでいないことから様相が少し違う。

調査区 3 8

耕作土の下には床土があり暗灰茶色土になっており、直径 3～7 cm の石を含む地山面に続く。

調査区 3 9

調査区 3 6 の堆積とほぼ同じであり、谷地形の堆積と考えられる暗青灰色粘質土がある。

調査区 4 0

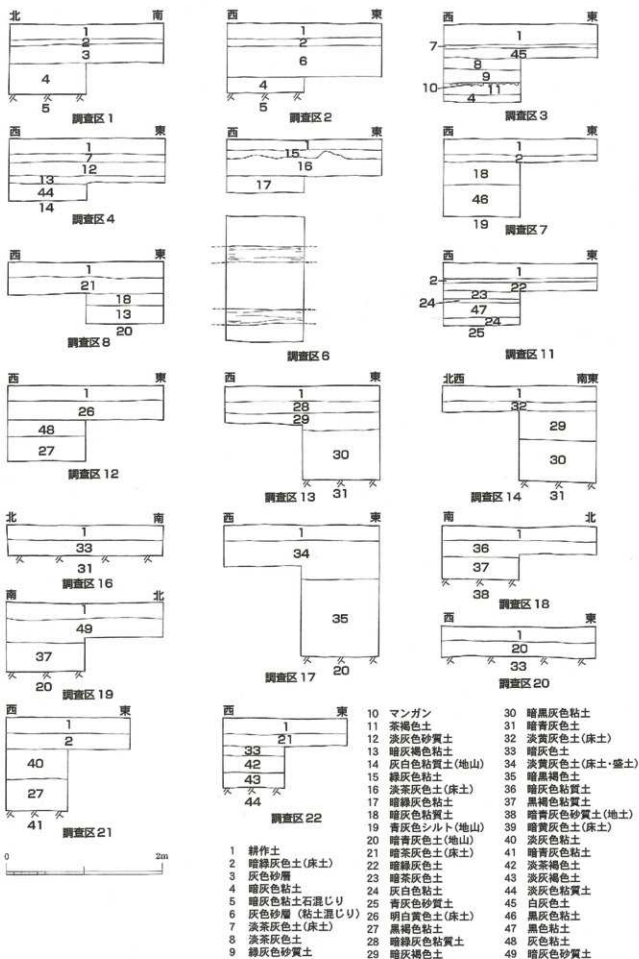
耕作土と床土の下に旧耕作土と旧床土があり、暗灰色砂質土に続く。谷地形の入り込んだところであろうか。すぐ東側の調査区 3 7、3 8 の堆積とは異なる。

調査区 4 1

耕作土と床土の下層には、砂混じりの暗灰色土があり、谷地形の堆積と考えられる暗灰色粘質土や暗黒灰色粘土がみられた。

調査区 4 2

耕作土の下には旧耕作土や整地土があり他に地形となっている。



- | | | | |
|---|-------------|----|--------------|
| 1 | 耕作土 | 30 | 暗黒灰色粘土 |
| 2 | 暗緑灰色土(床土) | 31 | 暗青灰色土 |
| 3 | 灰色砂層 | 32 | 淡黄灰色土(床土) |
| 4 | 暗灰色粘土 | 33 | 暗灰色土 |
| 5 | 暗灰色粘土石混じり | 34 | 淡黄灰色土(床土・盛土) |
| 6 | 灰色砂層(粘土混じり) | 35 | 暗黒褐色土 |
| 7 | 淡茶灰色土(床土) | 36 | 暗灰色粘質土 |
| 8 | 淡茶灰色土 | 37 | 黒褐色粘質土 |
| 9 | 緑灰色砂質土 | 38 | 暗青灰色砂質土(地土) |
| | | 39 | 暗黄灰色土(床土) |
| | | 40 | 淡灰色粘土 |
| | | 41 | 暗青灰色粘土 |
| | | 42 | 淡茶褐色土 |
| | | 43 | 淡灰色粘土 |
| | | 44 | 淡灰色粘質土 |
| | | 45 | 白灰色土 |
| | | 46 | 黒灰色粘土 |
| | | 47 | 黒色粘土 |
| | | 48 | 灰色粘土 |
| | | 49 | 暗灰色砂質土 |

図35 土層図

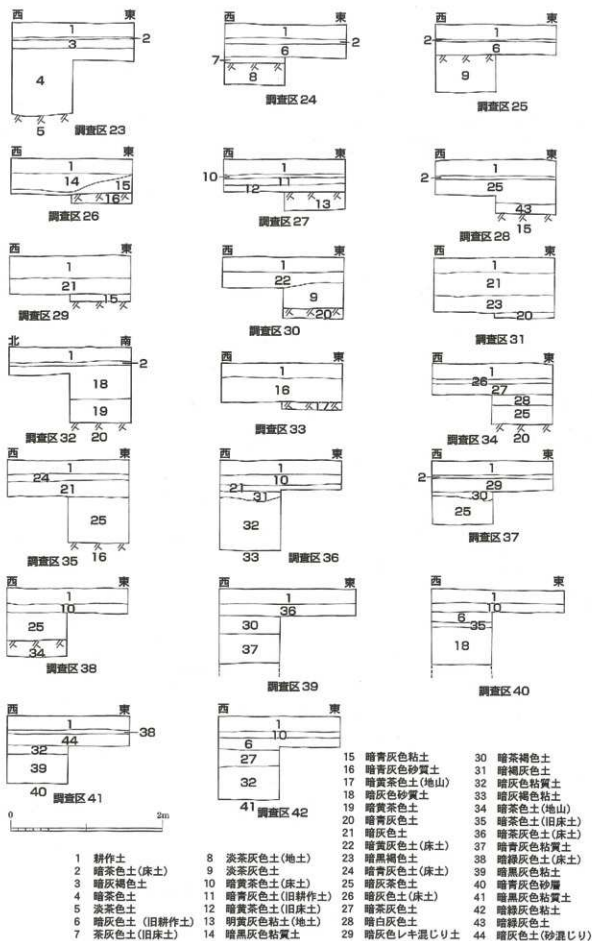


図36 土層図

遺構

確認されなかった。

遺物

調査区13から土師器の皿と調査区31から土師器の皿、加工板材、焼けた跡の有る木の出土があった。

○まとめ

地形的に扇状地及び谷底平野の様相を呈する場所であり、遺跡としては想定しにくい場所でもあった。しかし、巡礼道や隣接して字宮ヶ谷があり、二ノ宮神社等の神社の前身がここにあったといわれており、関連する遺構や遺物の出土が考えられた。

結果的に、遺構の検出はなかったが、遺物に関しても土師器の皿が2点と木製品が1点出土したのみで、そのほかのものは確認されていない。この遺物に関しても、量的なものもそうであるが、出土層を検討すれば、植物遺体を多く含む層の上層部分並びに最下層部分からの出土になり、遺構に伴うもので無い。この植物遺体を含む層に関しても、包含層としての認識をもてるような状況ではない。

いずれも谷底平野に堆積した植物遺体を含む黒色系の粘質土層になっており、流れ込みの可能性が高い。さらに、西側扇状地からの流れ込みというよりも東側の道筋からの流れ込みの可能性が高く、積極的な遺跡としての認識を持つものではない。

遺物の出土した調査区が2箇所あったことは、この谷の中での人の動きを知る痕跡が確認できた意義は大きい。調査対象地の北にある巡礼道や谷の東を通っていた小道についても人の往来があったことは明らかであり、その際に遺物の混入があったのではなかろうか。

時代的なものは小片でもあり積極的に肯定する根拠を持たないが、今後の周辺の状況によって考えて行きたい。

積極的に遺跡として認識できるものではなく、出土遺物はあったにせよ現段階では問題が無いと考える。工事についても、盛土を前提として計画を進めていることから、直接遺構や遺物に影響を与えるものではなく、今後の計画を進めてもらうことに支障は無いと考える。

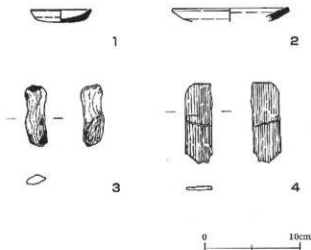


図37 出土遺物

1 2 馬田スガキ遺跡

調査地区 神崎郡福岡町馬田字スガキ78-1
ほか

調査主体 福岡町教育委員会

調査担当 出田 直 (福岡町教育委員会)

調査期間 平成19年11月16日 (金)



図38 調査場所位置図

○調査に至る経過

住宅開発に伴う事前調整があり、開発前に試掘調査を実施し遺跡の有無を調べる必要があると判断し協力を得て調査を行った。

○調査方法

耕作土等は重機により掘削し、壁面等は人力により精査した。その際、適宜写真や図面により記録をとった。

○調査概要

地形

周辺の地理的歴史的環境

地形区分上は、高位氾濫原に位置する。西には低位氾濫原が見られ、隣接地の試掘調査の際も氾濫原の堆積と考えられる状況であった。隣接して知られている遺跡は無いが、北東に福田東田黒遺跡が新たに発見され、氾濫原内における微高地において中世の遺跡の広がり確認されている。また、すぐ西の隣接地調査の際には、遺物が少量出土したが、遺跡と認識できるものではなかったが、西側周辺に遺跡の広がり考えられるものであった。

調査区の概要

調査区は、開発予定地内に合計8箇所を設定した。

調査区1

耕作土の下に床土があり、その下層に旧耕作土と旧床土と考えられる層が確認できた。その下層から、黒褐色シルト層があり、中から土師器がまとまって出土した。南東角には川原石があり遺構状の落ち込みが確認できた。

同様の土層が広がる

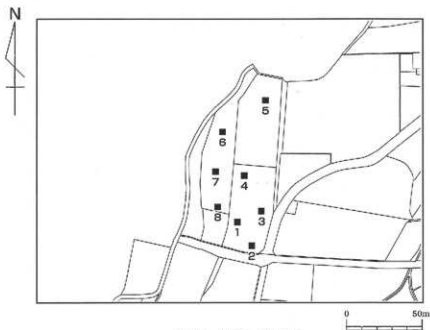


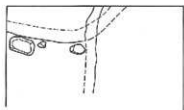
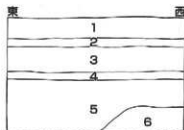
図39 調査区配置図

可能性があった。

調査区 2

耕作土と床土の下層からは灰色砂礫層があり、その下層には砂層堆積と砂礫層の堆積が見られた。調査区 1 の北側であるがすでに、堆積が著しく違う様相を呈している。

遺物や遺構は見られなかった。

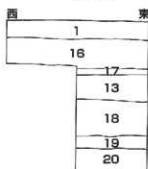


調査区 1

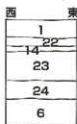
調査区 3

耕作土と床土の下層に旧耕作土と旧床土が見られ、旧床土内から須恵器と土師器の出土があった。それらは、2 次的な移動と考えられるものである。

下層からシルト質の堆積があり、調査区 1 と同様の黒褐色シルト層があったが、そこからの遺物の出土は見られなかった。



調査区 4



調査区 6

調査区 4

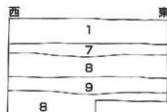
耕作土直下に旧耕作土と考えられる堆積があり、そこから土師器が 1 点出土した。これも 2 次的な移動と考えられる。旧床土以下はシルト層が堆積し下層には粘土層が見られた。調査区 1、調査区 3 とも違う堆積であった。

隣接する、小河川の氾濫堆積と考えることもできる様相である。

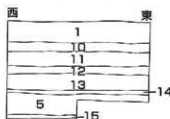
調査区 5

上段の最北端に設定した。基本的に調査区 4 と同様の堆積を見る。深さが調査区 4 よりも浅い部分で下層面が出ることから、調査区 5 から調査区 4 にかけて傾斜している地形が読み取れる。

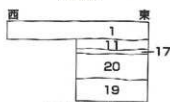
遺物・遺構ともに無かった。



調査区 2



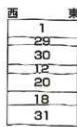
調査区 3



調査区 5



調査区 7



調査区 8

- | | | |
|----------------|----------------|---------------|
| 1 耕作土 | 13 暗灰茶色シルト | 25 暗黄灰色土(床土) |
| 2 淡緑灰色土(床土) | 14 暗黄茶色土 | 26 暗灰色土 |
| 3 淡緑茶灰色土(旧耕作土) | 15 灰白色砂質土 | 27 暗茶褐色土 |
| 4 淡茶灰色土(旧床土) | 16 淡茶灰色土(旧耕作土) | 28 暗灰色砂レキ層 |
| 5 黒褐色シルト | 17 暗黄灰色土(旧床土) | 29 暗黄灰色土(床土) |
| 6 淡茶灰色シルト | 18 暗灰褐色シルト | 30 暗灰色土(旧耕作土) |
| 7 暗黄茶色土(床土) | 19 暗黒灰色粘土 | 31 黒灰色粘土 |
| 8 灰色砂レキ層 | 20 暗灰色シルト | 32 淡灰色シルト |
| 9 淡茶灰色砂層 | 21 淡黄灰色シルト | |
| 10 暗灰茶色土(床土) | 22 暗緑灰色土 | |
| 11 暗緑灰色土(旧耕作土) | 23 暗黒灰色シルト | |
| 12 暗黄灰色土(旧床土) | 24 淡茶色シルト | |



図40 土層図

調査区 6

調査区5とよく似ており、耕作土と床土の下層にはシルト層が広がる。

遺物・遺構は無かった。



調査区 7

調査区6とは異なり、シルト層が見られずに、暗灰色土や暗茶褐色土層がある。しかし、遺物や遺構は見られなかった。

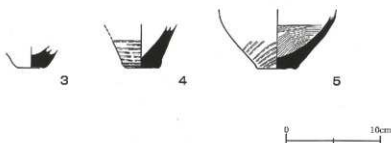


図41 出土遺物

調査区 8

調査区1の西側にあたり、調査区1の堆積が確認できるか期待した。しかし、調査区1の堆積は確認できなかった。上面から、耕作土、床土、旧耕作土、旧床土、その下にシルト層が広がる。調査区1もシルト層であるが黒褐色しるとであり、調査区8では、暗灰色であり様相を異にする。

遺構

調査区1から落ち込みが確認できた。

遺物

調査区1の包含層とすることのできる堆積から土師器が出土した。

調査区3の旧床土から須恵器と土師器が出土した。

調査区4の旧耕作土から土師器が出土した。

〇まとめ

調査区1の黒褐色シルトの広がり、そう広範囲になるものではなく、南東に設置した調査区2では既に見られない。西側に設置した調査区8においても見られず、狭小のものといえる。ただし、他の調査区においては、シルト層や粘土層の存在から、隣接する小河川の氾濫堆積である可能性も高く、調査区5と調査区4の関係から、北から南に傾斜している様相が看取できる。

遺跡としての性格は弱い面もあるが、遺物の出土が顕著なことから遺跡として認識し今後の調整に備えたい。新発見の遺跡で、遺跡名は、馬田スガキ遺跡とした。

結果的に、遺跡と認識できる範囲は小さいものの注意が必要であるが、分譲住宅工事においては盛土工法などをとることによって今後の遺跡調査の必要性は保護という点から考えれば、必要ないと考えられる。ただし、関係書類の提出は南端部分の工事を行う際には必要であることを申し添える。

1 3 南田原条里遺跡（第9次）

調査地区 神崎郡福崎町南田原751番1ほか
調査主体 福崎町教育委員会
調査担当 出田 直（福崎町教育委員会）
調査期間 平成20年2月28日（木）

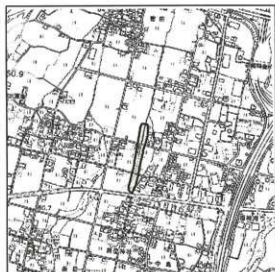


図42 調査場所位置図

○調査に至る経過

道路整備事業及び下水道事業計画があり文化財の有無照会の際、周知の遺跡の範囲に含まれると考えられる場所であり、確認調査の必要性があることから協力を得て調査を行った。

○調査方法

町道中島井ノ口線道路改築工事及び雨水幹線整備工事部分を調査対象地とし、それぞれの田の筆ごとに1箇所～2箇所の調査区を設けた。盛土を重機により掘削し、壁面等は人力により精査を行った。その際、適宜写真や図面により記録を作成した。また、埋め戻し後は、耕作予定箇所の関係から、調査場所がわかるように杭を打った。

○調査概要

地形

周辺の地理的歴史的環境

地形区分上は、市川の氾濫原となる部分で低位氾濫原と位置づけられる。南田原条里遺跡に該当する場所であるが、条里という性格以外に遺跡として認められる場所は、微高地状の場所があり、旧来からの集落を形成している場所が該当する。その周辺には、中世の遺物包含層やpitなどを伴う遺構が確認された場所もある。

この周辺からは顕著に遺物の出土した場所や遺構が確認された場所は知られていない。

しかし、中世から存在すると考えられる妙徳山神積寺の飛び地境内としてのかかわりを持つ五合堂（薬師堂）の存在から、周辺に遺跡の存在する可能性は高い。（現在の五合堂は東から移設されたもの）

調査区の概要

調査予定箇所に、9箇所の調査区を設定した。

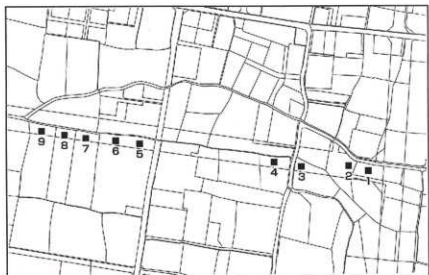


図43 調査区配置図

調査区 1

ここは、現五合堂（薬師堂）のすぐ北に位置し、地形的には微高地状の場所になる。

土層は、耕作土、床土と続き、暗灰褐色砂質土があり、遺物は見られなかった。地山面に pit 状のものが検出されたが、遺物を伴わない関係から、積極的に行こうとすることはできなかった。しかし、後述する調査区 2 において確認状況から、遺構の可能性が高く、このレベルに遺構が広がることが想定できる。

調査区 2

ここは、耕作土、床土と続き、調査区内に暗渠を設置する際に掘削をかけたものがみられた。暗茶褐色土層は、遺物を多く含むこの周辺に遺構などが広がることが考えられた。

調査区 3

調査区 2 よりも 1 段低い田になり、航空写真を見ても旧流路であった場所に水田が作られている様子がわかる。氾濫原の一部であることがわかり、暗灰色粘質土からは、須恵器と土師器の出土を見た。しかし、これらは上からの流れ込みと考えられるもので 2 次的な移動と考えられる。

調査区 4

調査区 3 の北側に設置したが、調査区 3 と同様の土層が確認できた。遺物も細片が 1 点出土したが、調査区 3 と同様に流れ込みの可能性が高い。

調査区 5

土層は、現耕作土直下に旧耕作土があり、そのなかから須恵器が 1 点出土した。2 次的移動と考えられる。床土の下部にはマンガン層が確認でき、水の透水性が高いことがわかる。下層には、暗茶褐色土があるが、そこからは遺構遺物は見つからなかった。

調査区 6

調査区 5 で確認された、暗茶褐色土層が確認されているが、その上層に暗灰色土層が 1

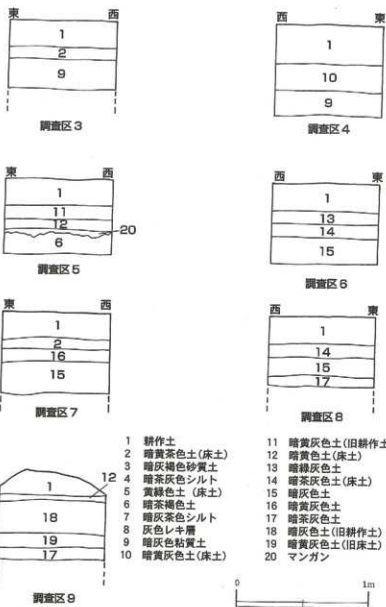


図 44 土層図

層確認できた。

遺構遺物共に皆無である。

調査区7

調査区6と同様の層序である。遺構遺物共に皆無である。

調査区8

調査区6、7と同様であった。遺構遺物共に皆無である。

調査区9

土層は、現耕作土直下に旧耕作土があり、その下に旧床土がある。下層の暗茶灰色土は調査区8でも確認でき、同様の堆積と考えられる。

遺構遺物共に皆無であった。

遺構

顕著な遺構は確認されなかったが、調査区1から、pit(穴)状のものが検出できた。調査区2からは、遺物包含層と考えられる遺物を比較的多く含む層が確認できた。

遺物

調査区2から、土師器と考えられる土器類が多く出土した。

調査区3からは、2次的な移動のものと考えられるが、須恵器や土師器が少量出土した。

調査区4からは、調査区3同様に2次的移動の須恵器が出土した。

○まとめ

ほとんどが氾濫原の中に位置する場所であり、遺構等の存在は希薄なものと考えられた。しかし、南端に隣接する形で五合堂が存在し、現建物は古くは無いが、存在自体は中世にさかのぼる可能性を有している。そのために、周辺に中世の遺構が広がる可能性はあった。調査区1と調査区2の状況から、微高地と考えられる場所に遺構が広がる可能性が高く、遺物を顕著に含むことから、周辺調査の必要性があると判断できる。

しかし、調査区3や調査区4における遺物の出土状況は明確な遺構を伴うものではなく、遺物包含層的なものも無く、氾濫原と考えられる旧流路的な場所や旧耕作土中ということから判断して、これ以上の調査の必要性は認めがたい。

条里遺跡の性格上、明確な遺構の広がりを確認できた場所は少ない。今回、微高地上に広がることがわかった点については、過去の調査事例と同じ傾向にあり、今後の確認調査においても指標となるものと考えられる。

*平成20年度に本調査(南田原条里遺跡第10次)を実施し、平成20年度に報告書を刊行した。その結果、弥生時代中期初頭の大溝が確認され、弥生土器、石器などが出土した。中世の遺物や遺構は想定していたよりも少なく、この周辺では、弥生時代の集落遺跡があることが確認できた。

平成20年度

14 南田原条里遺跡(第11次)

調査地区 神崎郡福岡町南田原字岸ノ上
2244-1ほか

調査主体 福岡町教育委員会

調査担当 出田 直(福岡町教育委員会)

調査期間 平成20年7月25日(金)

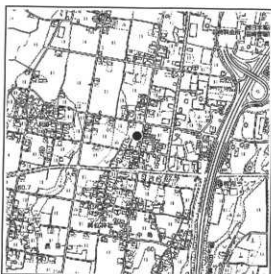


図45 調査場所位置図

○調査に至る経過

個人住宅の建て替えの計画があり文化財の有無照会の際、周知の遺跡の範囲に含まれると考えられる場所であり、確認調査の必要性があることから協力を得て調査を行った。

○調査方法

既存建物撤去後に、合併浄化槽設置の際に、掘削状況を確認した。

○調査概要

周辺の地理的歴史的環境

地形区分上は、市川の氾濫原となる部分で低位氾濫原と位置づけられる。南田原条里遺跡に該当する場所であるが、条里という性格以外に遺跡として認められる場所は、微高地状の場所があり、旧来からの集落を形成している場所が該当する。その周辺には、中世の遺物包含層やpitなどを伴う遺構が確認された場所もある。

調査区の概要

調査予定箇所、1箇所調査区を設定した。

調査区1

合併浄化槽設置のために、現地表から約180cmまで掘削を行い確認した。

バラス敷きの地表下には盛土があり、旧耕作土の存在も確認できた。その下層には、地山面となり、拳大くらいの石を含む層となる。

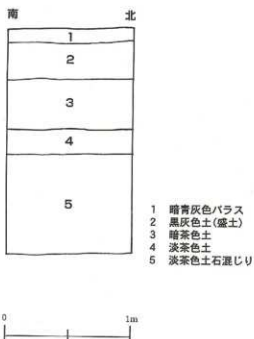


図46 土層図

遺構

顕著な遺構は確認されなかった。

遺物

皆無であった。

○まとめ

南田原条里遺跡内ではあるが、遺構遺物共に皆無であり条里内の遺構等のあるポイントからは外れる場所と考えることができる。

条里遺跡の性格上、明確な遺構の広がりを確認できた場所は少ない。

今回の工事範囲における調査の必要性は無いものの、慎重工事をしてもらうようにした。

15 南田原条里遺跡 (第12次)

調査地区 神崎郡福崎町南田原字川田2919番2ほか
調査主体 福崎町教育委員会
調査担当 出田 直 (福崎町教育委員会)
調査期間 平成20年10月21日 (火)

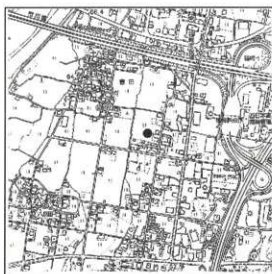


図47 調査場所位置図

○調査に至る経過

集合住宅の建設の計画があり文化財の有無照会の際、周知の遺跡の範囲に含まれると考えられる場所であり、確認調査の必要性があることから協力を得て調査を行った。

○調査方法

重機により掘削し土層状況を確認した。

○調査概要

周辺の地理的歴史的環境

地形区分上は、市川の氾濫原となる部分で低位氾濫原と位置づけられる。

南田原条里遺跡である場所から(南田原字中島)弥生時代中期初頭の溝が確認され集落遺跡があることがわかった。

調査区の概要

調査予定箇所にて、1箇所の調査区を設定した。

調査区1

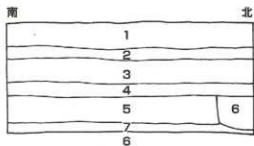
構造物を建設する場所を掘削し、地下の状況を把握した。耕作土直下には、床土が敷設され、その下層には旧耕作土と考えられる暗灰色粘質土と旧床土が確認され、その下層には氾濫原に伴うと考えられる粘土層が堆積している。

遺構

遺構は確認されなかった。

遺物

皆無であった。



- 1 耕作土
- 2 淡黄灰色粘質土(床土)
- 3 暗灰色粘質土
- 4 暗灰褐色粘質土
- 5 暗黄灰色粘土
- 6 暗灰色粘土
- 7 暗黄茶色粘土

図48 土層図

○まとめ

南田原条里遺跡内ではあるが、低位氾濫原に当てはまる場所でもあり遺構遺物共に皆無であった。条里内の遺構等のあるポイントからは外れる場所と考えることができる。

16 南田原条里遺跡（第13次）

調査地区 神崎郡福崎町南田原字川田2919
番2ほか
調査主体 福崎町教育委員会
調査担当 出田 直（福崎町教育委員会）
調査期間 平成20年11月14日（金）



図49 調査場所位置図

○調査に至る経過

町道中島井ノ口線の建設の計画があり文化財の有無照会の際、周知の遺跡の範囲に含まれると考えられる場所であり、確認調査の必要性があることから協力を得て調査を行った。

○調査方法

重機により掘削し土層状況を確認した。

○調査概要

地形

周辺の地理的歴史的環境

地形区分上は、市川の氾濫原となる部分で低位氾濫原と位置づけられる。

南田原条里遺跡である場所から（南田原字中島）弥生時代中期初頭の溝が確認され集落遺跡があることがわかった。南田原長日遺跡とのかかわりも興味深い遺跡である。

調査区の概要

調査予定箇所にて、8箇所の調査区を設定した。調査区番号は、昨年度（南田原条里遺跡第9次）の続き番号とし、調査区12～19とした。

調査区12

耕作土の下に、暗茶褐色粘質土があり、旧河道と考えられる。

遺構

確認されなかった。

遺物

皆無であった。

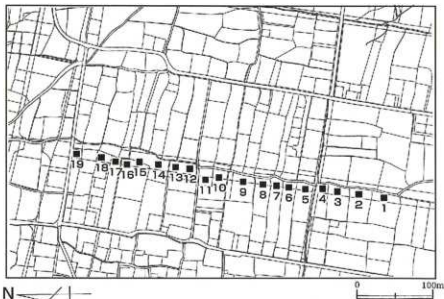


図50 調査区配置図

調査区13

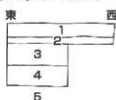
調査区1同様、旧河道と考えられた。

遺構

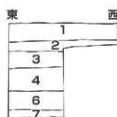
確認されなかった。

遺物

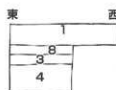
焼けた石が1点出土した。



調査区1



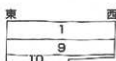
調査区2



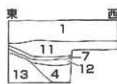
調査区3

調査区14

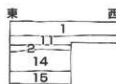
クロボク層が確認できた。遺物包含層的なものは見られなかった。



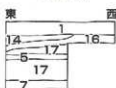
調査区4



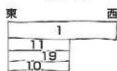
調査区5



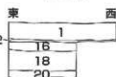
調査区6



調査区7



調査区8



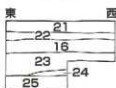
調査区9

遺構

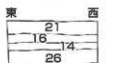
確認されなかった。

遺物

皆無であった。



調査区10



調査区11



調査区15

暗茶灰色シルト層が確認できた。しかし、遺構はなかった。

遺構

確認されなかった。

遺物

皆無であった。

- | | | |
|-------------|------------|--------------|
| 1 耕作土 | 11 暗茶色土 | 21 バラス層 |
| 2 暗黄灰色土(床土) | 12 暗灰色砂層 | 22 暗茶褐色土(床土) |
| 3 暗灰色粘質土 | 13 暗青灰色砂層 | 23 暗褐色土 |
| 4 暗黒灰色粘土 | 14 暗茶灰色土 | 24 暗黄色粘土 |
| 5 暗黄灰色粘土 | 15 暗青灰色粘質土 | 25 暗青灰色土 |
| 6 暗黄青灰色粘土 | 16 暗茶褐色土 | 26 暗灰色土(地山) |
| 7 暗青灰色粘土 | 17 暗灰色粘土 | |
| 8 暗緑灰色土(床土) | 18 暗茶灰色粘土 | |
| 9 暗黄灰色土 | 19 暗茶色土 | |
| 10 暗灰色砂質土 | 20 暗青灰色シルト | |

図51 土層図

調査区16

壁面でpit状のものが確認できた。しかし、遺跡内遺構とは言いがたいものになる。

遺構

壁面で遺構状のものが確認できたが、平面では明確でなかった。

遺物

皆無であった。

調査区17

耕作土直下で地山面が確認できた。遺構状のものが確認できたが明確でなかった。

遺構

pitが確認できた。

遺物

耕作土中から、須恵器の出土があった。遺構に伴わない。

調査区18

調査区17と同様

遺構

なし

遺物

須恵器が1点出土したが、極小のものである。

調査区19

耕作土直下で地山面が確認できた。

遺構

なし

遺物

皆無であった。

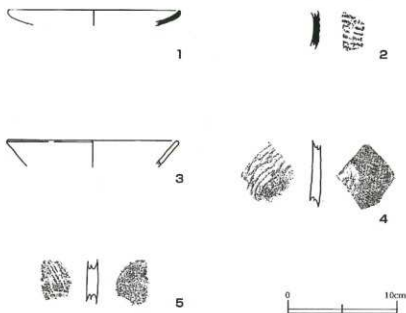


図52 出土遺物

○まとめ

南田原条里遺跡内ではあるが、低位氾濫原に当てはまる場所でもあり、遺構は明確でなかった。一部、地山面が耕作土直下で見られるところは、微高地状の端部と考えられ、遺跡の中心は、調査場所からまだ西側になると考えられる。遺物は少量出土したものの問題がないと考えられる。

結果的に今回の工事範囲における調査の必要性は無いものの、慎重工事をしてもらうようにしたい。

1 7 西田原辻ノ前遺跡

調査地区 神崎郡福崎町西田原字辻ノ前1620
番1ほか
調査主体 福崎町教育委員会
調査担当 出田 直（福崎町教育委員会）
調査期間 平成21年3月30日（月）



図53 調査場所位置図

○調査に至る経過

分譲住宅開発の協議があり、開発に先立ち試掘調査の必要性があることから協力を得て調査を行った。

○調査方法

重機により掘削し土層状況を確認した。

○調査概要

周辺の地理的歴史的環境

地形区分上は、低位の段丘面に位置づけられる。

周知の遺跡としては、南田原条里遺跡が南方にあり、周辺の字名で「大塚」と記すところもあることから、遺跡の存在も強いところであった。古くは遺跡の空白地であったが、近年の開発に伴う試掘調査区結果、新発見の遺跡が増え、調査対象地を中心として西方には、中世が中心となる南田原桶川遺跡が、北西には奈良時代から中世にかけての西田原堂ノ前遺跡が知られるようになった。

調査区の概要

調査予定箇所、10箇所の調査区を設定した。

調査区 1

中間に灰色粘質土がありそこから遺物の出土があった。

遺構

確認されなかった。

遺物

須恵器、土師器の出土があった。

調査区 2

暗黄灰色土内から遺物の出土があった。

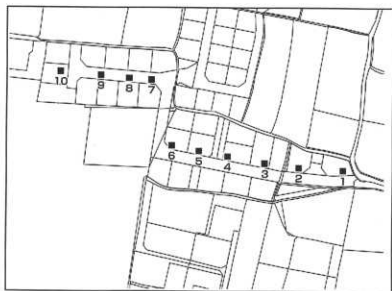
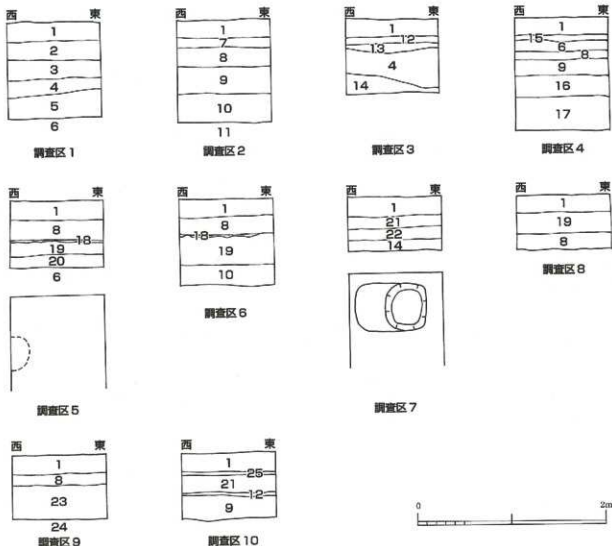


図54 調査区配置図



- | | | |
|---------------|----------------|---------------|
| 1 耕作土 | 11 黒色シルト(クロボク) | 21 暗灰色土(旧耕作土) |
| 2 暗茶灰色粘質土(床土) | 12 暗黄茶色土 | 22 暗黄灰色土(床土) |
| 3 灰色粘質土 | 13 暗灰色砂層 | 23 暗灰色砂礫土層 |
| 4 暗灰色粘質土 | 14 暗灰色砂質土 | 24 灰色砂礫層 |
| 5 暗灰褐色粘質土 | 15 暗茶灰色土(床土) | 25 暗緑黄色土(床土) |
| 6 暗灰色砂礫層 | 16 暗茶褐色粘質土 | |
| 7 暗茶色土(床土) | 17 暗黒色シルト | |
| 8 暗黄灰色土 | 18 マンガン | |
| 9 暗灰褐色土 | 19 暗灰色土 | |
| 10 暗茶灰色土 | 20 暗茶色土 | |

図55 土層図

遺構

確認されなかった。

遺物

須恵器(東播系須恵器の鉢)が出土した。

調査区 3

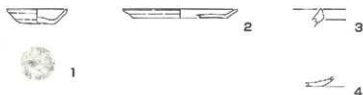
暗灰色粘質土から遺物が出土した。

遺構

確認されなかった。

遺物

須恵器と土師器が出土した。



調査区 4

暗灰色砂礫層などが確認できた。

遺構

確認されなかった。



遺物

皆無であった。

調査区 5

暗黄灰色土の下にマンガン層があり硬くなっていたが、そこに、pit状のものが確認でき、中から山茶碗が出土した。遺構面と考えることができる。



遺構

壁面で遺構状のものが確認できたが、平面では明確でなかった。



遺物

須恵器（山茶碗）が出土した。（完形品となる）

図56 出土遺物



調査区 6

調査区5と同様にマンガン層の下に遺物の出土があった。遺物・遺構は無かった。

遺構

確認できなかった。

遺物

土師器（ナベ）が出土した。

遺物

土師器（ナベ）が出土した。

調査区 7

旧耕作土が確認でき、その下に遺構面が確認できた。柱穴と考えられる遺構であった。

遺構

柱穴

遺物

土師器が出土した。

調査区 8

暗灰色土層が確認でき、遺物が出土した。

遺構

なし

遺物

須恵器、土師器

調査区 9

暗黄灰色土層が確認でき、遺物が出土した。

遺構

なし

遺物

須恵器

調査区 10

暗灰褐色土層が確認できた。

遺構

なし

遺物

皆無であった。

○まとめ

調査範囲の中央部分から遺構並びに遺物の出土が見られ、遺跡として考えることができる状況であった。

新たな遺跡として字名を冠して「西田原辻ノ前遺跡」とする。

今回の開発範囲における調査によって遺跡が確認された。今後は、届出をもって対応するものの、宅地開発という性格上、慎重工事で対応可能と考えられた。

18 東広畑古墳（第4次）

調査地区 神崎郡福崎町西田原字東広畑
 調査主体 福崎町教育委員会
 調査担当 出田 直（福崎町教育委員会）
 調査期間 平成20年9月～12月

○調査に至る経過

古墳の傷みが激しく崩壊の危機に陥ったことにより、古墳公園にする事によって保護を図ろうとする計画があり、古墳の石室内の状況を把握する必要があった。

○調査方法

人力により、精査を行った。

○調査概要

地形

周辺の地理的歴史的環境

地形は、すてには場整備が実施されており、田の中に独立して古墳が存在しているかのように見える。過去の地形と照らし合わせると、尾根上地形の端部に構築された古墳として知られていた。東広畑古墳の周辺には、東新田古墳、大畑古墳群などが知られ、いずれも、古墳時代後期の円墳であり横穴式石室を有する。これらの古墳は、石室が西側に開口し西方の西広畑遺跡とのかかわりが注目される。



図57 調査場所位置図

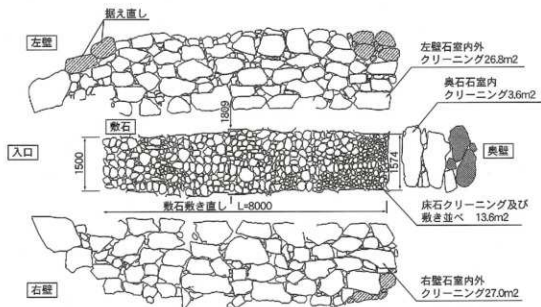


図58 調査区配置図

調査区の概要

古墳の石室内の調査を行い、床石の全面調査を行った。

石室内には、過去の調査によって確認されていた石棺材が残り、床石も存在していることがわかってきた。それらを取り除き、下部の状況確認を行った。

遺構

床石の下部に排水溝と考えられる溝の存在が確認できた。

遺物

須恵器、勾玉、耳環が出土した。

○まとめ

東広畑古墳は、過去3度の調査が行われ、墳形、規模、石室規模などがわかってきた。この度は、石室内の床石の状況とその下層の状況確認、遺物の確認を行い古墳の様相を把握することに努めた。

その結果、遺物などから6世紀後半の築造と考えることができた。

また、詳細な報告は、東広畑古墳の調査報告にまとめることとし、第4次調査においては、写真等で調査概要を報告するものとする。

出土遺物觀察表

出土遺物観察表

H19年度 福田東田黒遺跡

地区名	種別	器種	法量 (cm)				色 調	・形 態 ・技 法 ・特 徴	胎 土	焼成
			口径	腹径	底径	器高				
11-1	弥生土器	甕				残 4.5	外面灰褐7.5YR4/2 内面暗灰N3/0	ハケメの後 タタキ	精 良	良好
11-2	弥生土器	甕			(3.8)	残 2.9	褐灰7.5YR6/1	外面タタキ 内面ハケメ	精 良	良好
11-3	須恵器	杯				残 1.6	褐灰7.5YR5/1	ロクロナデ	精 良	良好
11-4	須恵器	甕 (24.8)				残 2.1	外面紫灰5P6/1 内面褐灰10YR5/1	ロクロナデ 自然釉付着	精 良	良好
11-5	土師器	皿 (11.8)				残 2.3	灰黄褐10YR6/2	ヨコナデ	精 良	良好
11-6	土師器	皿 (12.2)			(8.4)	残 2.4	にぶい橙7.5YR6/4	ヨコナデ	ごく少量の 砂粒含む	良好
11-7	土師器	皿 (16.0)				残 2.3	灰褐5YR5/2	ヨコナデ	砂粒少量 含む	良好
11-8	土師器	皿 (16.2)				残 2.1	にぶい赤褐5YR5/4	ヨコナデ	精 良	良好
11-9	土師器	杯			(9.6)	残 1.3	外面にぶい黄2.5Y6/4 内面明褐7.5YR5/6	ロクロナデ ハラケズリ	精 良	良好
11-10	土師器	壺			(9.0)	残 2.8	外面赤褐5YR4/6 内面にぶい橙7.5YR7/3		少量の砂粒 含む	良好
11-11	土師器	塀 (21.2)				残 3.4	外面黒10YR2/1 内面黒褐10YR3/2	ロクロナデ 外面スス付着	砂粒多く 含む	良好
11-12	土師器	塀 (23.6)				残 3.4	灰褐10YR4/1	ハラケズリ	精 良	良好
11-13	土師器	塀 (19.6)				残 6.3	黒褐10YR3/2	タタキあり	精 良	良好
11-14	土師器	塀 (21.0)				残 4.7	外面灰黄褐10YR4/2 内面にぶい赤褐5YR5/4	外面タタキ 内面ハケメ	精 良	良好
11-15	土師器	甕 (18.1)				残 5.2	外面黒褐10YR3/2 内面赤黒2.5YR2/1	タタキの後 ハケメ	3mmの 砂粒含む	良好
11-16	土師器	塀 (25.4)				残 4.5	外面にぶい黄橙10YR6/4 内面にぶい赤褐2.5YR5/4	外面タタキ 内面ハケメ	精 良	良好

H19年度 西田原堂ノ前遺跡

地区名	種別	器種	法量 (c m)				色 調	・形 態 ・技 法 ・特 徴	胎 土	焼 成
			口径	腹径	底径	器高				
15-1	土師器	皿	(8.0)		(5.0)	1.0	にぶい橙5YR6/4	外面砂礫附着	精良	良好
15-2	土師器	皿	(9.5)		(7.6)	0.9	灰褐5YR6/2		少量の砂粒含む	良好
15-3	土師器	埴				残4.3	紫灰5RP5/1	タタキあり 外面スス附着	精 良	良好
15-4	土師器	埴				残5.4	にぶい橙7.5YR6/4	格子目タタキ 外面スス附着	砂粒含む	良好
15-5	緑釉 陶器	皿			(7.4)	残1.25	黄灰2.5Y5/1		精 良	良好
15-6	須恵器	皿				1.6	緑灰10GY6/1		精 良	良好
15-7	須恵器	壺				残1.1	灰褐7.5YR5/2		精 良	良好
15-8	須恵器	壺	(15.0)			残1.55	緑灰10GY5/1	ロクロナデ	ごく少量の 砂含む	良好
15-9	須恵器	杯			(5.0)	残1.5	褐灰5YR6/1	ロクロナデ 底部糸切り	精 良	良好
15-10	須恵器	杯	(13.0)		(8.8)	2.7	緑灰10GY6/1	ロクロナデ 底部ヘラ切り	ごく少量の 砂粒砂礫含む	良好
15-11	須恵器	杯	(16.4)			残2.25	灰N4/0	ロクロナデ 自然釉附着	精 良	良好
15-12	須恵器	壺	(9.2)			残3.7	褐灰10YR5/1	ロクロナデ 自然釉附着	精 良	良好
15-13	須恵器	壺				残2.4	灰白N7/0		少量の砂粒 含む	良好
15-14	須恵器	杯				残2.3	褐灰10YR6/1	ロクロナデ	精 良	良好
15-15	須恵器	杯	(18.4)		(7.4)	4.8	灰N6/0	ロクロナデ 底部糸切り	精 良	良好
15-16	須恵器	皿			(13.0)	残2.5	青灰5B4/1	ロクロナデ	精 良	良好
15-17	須恵器	壺				残2.5	青灰5PB5/1	格子目タタキ の後ハケメ 同心円文タタキ	精 良	良好
15-18	須恵器	壺				残4.5	灰N5/0	タタキ 同心円文タタキ	精 良	良好
15-19	須恵器	壺				残4.3	黄灰2.5Y5/1	格子目タタキ 同心円文タタキ	精 良	良好
15-20	須恵器	壺				残3.8	緑灰10GY5/1	格子目タタキ 同心円文タタキ	精 良	良好

H19年度 駅前地区

地区名	種別	器種	法量 (c m)				色 調	・形 態 ・技 法 ・特 徴	胎 土	焼成
			口径	腹径	底径	器高				
22-1	須臾器	甕				残3.06	褐灰10YR6/1	タタキあり	精良	良好
22-2	須臾器	杯	(15.8)			残3.1	青灰5PB6/1	ロクロナデ	精良	良好
22-3	土師器	壺			(4.6)	残3.55	内面暗灰N3/0 外面にふい赤褐 2.5YR4/3~5YR4/2	内面炭化物 付着	細かい砂粒 多く含む	

H19年度 田口ほ場整備予定地

地区名	種別	器種	法量 (c m)				色 調	・形 態 ・技 法 ・特 徴	胎 土	焼成
			口径	腹径	底径	器高				
37-1	土師器	皿	(6.4)		(3.4)	1.35	灰黄褐10YR6/2	ヨコナデ	2mmの砂粒 少量含む	良好
37-2	土師器	皿	(12.2)			残1.4	にふい褐7.5YR5/3	ヨコナデ	精 良	良好
37-3	木製品	木	幅 2.3			長さ 残6.6		一部に炭化し た所あり		
37-4	木製品	板	幅 3.0			長さ 残8.5		加工により丸 みあり		

H19年度 馬田スガキ遺跡

地区名	種別	器種	法量 (c m)				色 調	・形 態 ・技 法 ・特 徴	胎 土	焼成
			口径	腹径	底径	器高				
41-1	弥生 土器	甕				残4.9	外面にふい7.5YR8/1 内面灰白7.5Y8/1	タタキあり	砂粒少量 含む	普通
41-2	弥生 土器	壺	(19.0)			残5.2	外面浅黄橙7.5YR8/4 内面灰白2.5Y7/1	ロクロナデ タタキあり	砂粒多く 含む	良好
41-3	弥生 土器	甕			3.2	残2.2	外面にふい橙7.5YR7/4 内面浅黄橙7.5YR8/4		2mmの砂粒 多く含む	良好
41-4	弥生 土器	甕			3.4	残4.65	外面にふい橙5YR7/4 内面暗灰N3/0	タタキあり	1~3mmの 砂粒多く含む	良好
41-5	弥生 土器	甕			(4.4)	残6.3	外面橙2.5YR6/6 内面橙5YR6/6	タタキあり	2mmの砂粒 多く含む	良好

H20年度 南田原条里遺跡 (13次)

地区名	種別	器種	法量 (cm)				色 調	・形 態 ・技 法 ・特 徴	胎 土	焼成
			口径	腹径	底径	器高				
52-1	土師器	皿	(15.8)			残1.4	浅黄橙10YR8/3	ナア	精 良	良好
52-2	土師器	壺				残3.4	内 橙2.5YR6/6 外 黒N2/0	タタキ	精 良	良好
52-3	須恵器	山茶碗	(15.6)			残2.4	明青灰5PB7/1	ロクロナア	精 良	良好
52-4	須恵器	壺				残6.0	灰白N7/0	同心円文タタキ タタキの後ハケメ	精 良	良好
52-5	須恵器	壺				残4.1	内 灰N4/0 外 灰N6/0	同心円文タタキ ハケメ	精 良	良好

H20年度 西田原辻ノ前遺跡

地区名	種別	器種	法量 (cm)				色 調	・形 態 ・技 法 ・特 徴	胎 土	焼成
			口径	腹径	底径	器高				
56-12	須恵器	壺				残5.7	灰N6/0	棒状タタキ	少量の砂粒 含む	良好
56-13	須恵器	壺				残7.0	灰N6/0	タタキ	ごく少量の 砂粒含む	良好
56-15	須恵器	壺				残7.5	暗青灰5PB4/1	タタキ	少量の砂粒 含む	良好
56-10	須恵器	山茶碗	16.2		5.9	4.8	青灰5PB6/1	回転ナア 底部糸切り	砂粒多く含 む	良好
56-7	須恵器	山茶碗	15.8		5.2	4.75	青灰5PB6/1	回転ナア 底部糸切り	細かい砂粒 多く含む	良好
56-9	須恵器	山茶碗	(16.0)		(5.4)	4.5	青灰5PB6/1	回転ナア 底部糸切り	砂粒多く含 む	良好
56-8	須恵器	山茶碗	(16.0)		(5.0)	5.1	灰N7/0	回転ナア 底部糸切り	砂粒多く含 む	良好
56-6	須恵器	山茶碗	(15.6)		(5.2)	5.1	明青灰5PB7/1	回転ナア 底部糸切り	砂粒、小石含 む	良好
56-5	須恵器	山茶碗	(15.6)		(5.0)	残4.9	灰白N7/0	回転ナア 底部糸切り	6mmの石含 む	良好
56-11	須恵器	山茶碗	(15.6)		(4.0)	残4.9	灰白5Y8/1	回転ナア 底部糸切り	6mmの石含 む	良好
56-1	須恵器	小皿	9.4		5.8	2.4	灰白N7/0	回転ナア 底部糸切り	砂粒多く含 む	良好
56-4	須恵器	坏				残1.2	青灰5PB6/1	回転ナア	精 良	良好
56-2	須恵器	皿	(18.2)		(15.0)	1.35	灰白N7/0	回転ナア	砂粒含む	良好
56-16	須恵器	壺				残9.5	灰白N7/0	平行タタキ 同心円紋タタキ	精 良	良好
56-3	須恵器	こね鉢				残2.8	灰N6/0	ナア	精 良	良好
56-14	土師器	壺				残8.4	褐灰7.5YR6/1	平行タタキ	砂粒多く含 む	良好

圖 版

1 田口遺跡



調査前の状況



調査区1

2 南田原条里遺跡 (第8次)

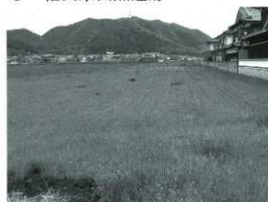


作業状況



調査区1

3 福田東田黒遺跡



調査前の状況 (南から)



調査前の状況 (西から)



作業状況



作業状況

3 福田東田黒遺跡



調査区1



調査区2



調査区3



調査区4



調査区5



調査区6



調査区7



調査区8

3 福田東田黒遺跡



調査区9



調査区10

4 西田原堂ノ前遺跡



調査前の状況



作業風景



調査区1



調査区1 (遺構)



調査区2



調査区2 (遺構)

4 西田原堂ノ前遺跡



調査区3



調査区4

5 南田原地区 (西光寺)



調査前の状況



調査区1

6 駅前地区



調査前の状況



作業風景



調査区1



調査区2

7 西田原地区 (北野)



作業風景



調査区



調査区



調査区

8 新町地区 (福崎幼児園建設予定地)



調査前の状況



作業風景



調査区1



調査区2

8 新町地区 (福崎幼児園建設予定地)



調査区 3



調査区 4



調査区 5

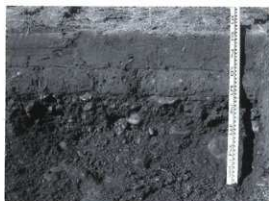


調査区 6

9 山崎地区



調査区 1



調査区 2



調査区 3



調査区 4

10 桜遺跡



調査前の状況



調査区1

11 田口地区 (ほ場整備予定地)



調査前の状況



調査前の状況



調査前の状況



作業風景



調査区 1



調査区 2

11 田口地区 (ほ場整備予定地)



調査区 3



調査区 6



調査区 7



調査区 8



調査区 11



調査区 12



調査区 13



調査区 14

11 田口地区 (ほ場整備予定地)



調査区15



調査区16



調査区18



調査区19



調査区20



調査区21



調査区22



調査区23

11 田口地区 (ほ場整備予定地)



調査区24



調査区25



調査区26



調査区27



調査区28



調査区29



調査区30



調査区31

11 田口地区 (ほ場整備予定地)



調査区32



調査区33



調査区34



調査区35



調査区36



調査区37



調査区38



調査区39

11 田口地区 (ほ場整備予定地)



調査区40



調査区41



調査区42



調査前の状況

12 馬田スガキ遺跡



調査前の状況



作業風景



調査区1



調査区2

12 馬田スガキ遺跡



調査区3



調査区4



調査区5



調査区6



調査区7



調査区8

13 南田原条里遺跡 (第9次)



調査前の状況



調査区1

13 南田原条里遺跡 (第9次)



調査区 2



調査区 3



調査区 4



調査区 5



調査区 6



調査区 7



調査区 8



調査区 9

14 南田原条里遺跡（第11次）



調査前の状況



調査区1

15 南田原条里遺跡（第12次）



作業状況



調査区1

16 南田原条里遺跡（第13次）



調査前の状況（南から）



作業状況



調査区12



調査区13

16 南田原条里遺跡 (第13次)



調査区14



調査区15



調査区16



調査区17



調査区18



調査区19

17 西田原辻ノ前遺跡



調査前の状況



作業状況

17 西田原辻ノ前遺跡



調査区 1



調査区 2



調査区 3



調査区 4



調査区 4 (遺物出土状況)



調査区 5



調査区 6



調査区 8

17 西田原辻ノ前遺跡



調査区7



調査区7 (遺構検出状況)

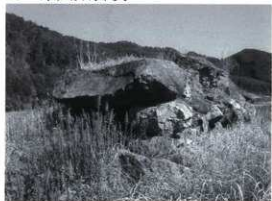


調査区9



調査区10

18 東広畑古墳



調査前の状況



作業風景



床石の状況



遺物出土状況

埋蔵文化財発掘調査報告書

平成19年度・平成20年度発掘調査報告

平成22年(2010年)3月31日

編集発行 福崎町教育委員会

〒679-2280

兵庫県神崎郡福崎町南出原3116-1

TEL 0790-22-0560

印刷 クリヤ印刷所

〒671-1116

兵庫県姫路市広畑区正門通4丁目2-9

TEL 079-236-3679

